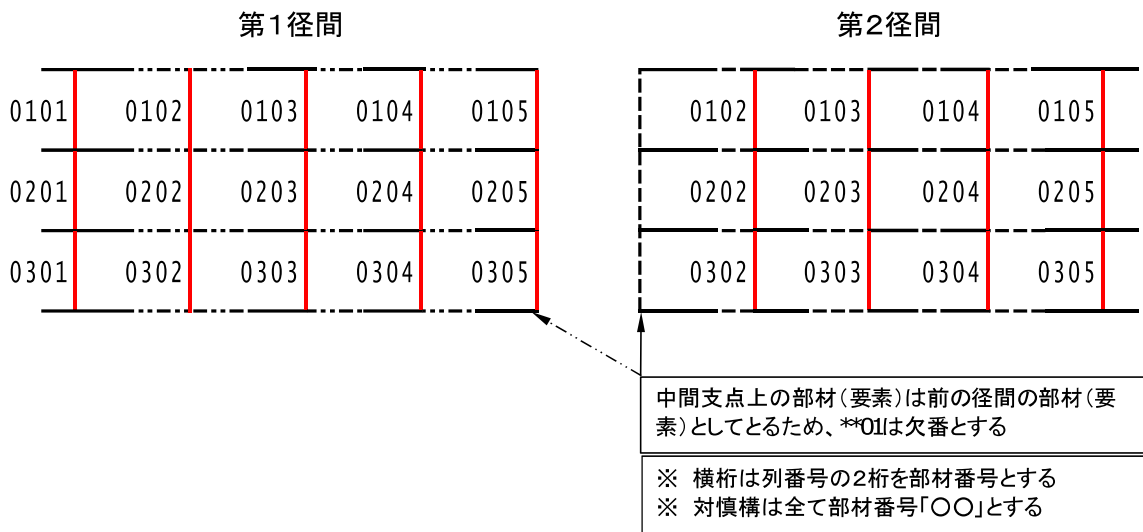


c) 連続桁の場合

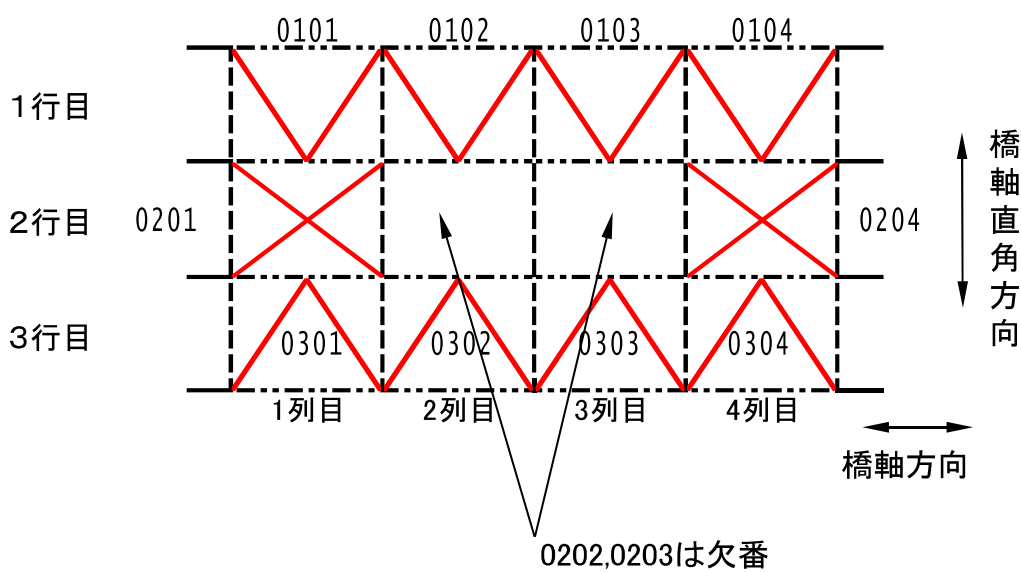


付図-3. 2 要素番号例 (その4)

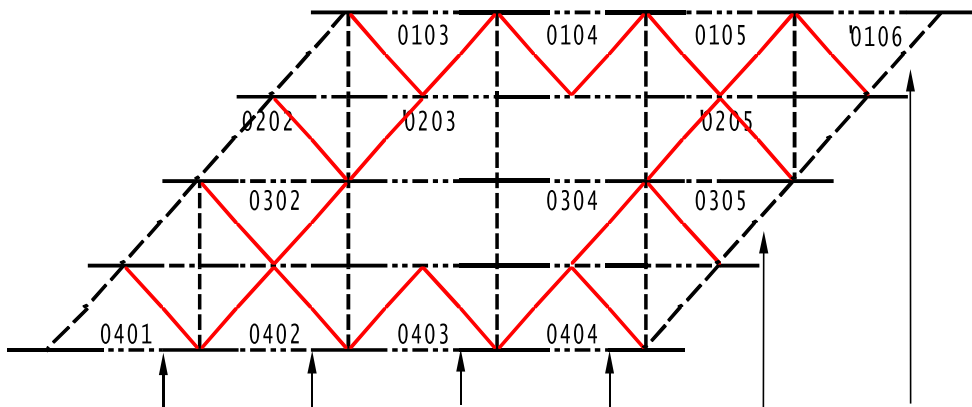
④横構 (I_u, II)

- ・橋軸方向は横桁，対傾構，ブラケットで，橋軸直角方向は主桁で分割する。なお，縦桁では分割しない。
- ・横構のある格間とない格間が混在する場合，ない格間は欠番とし，番号を飛ばす。
- ・部材番号は「00」とする。

a) 標準例

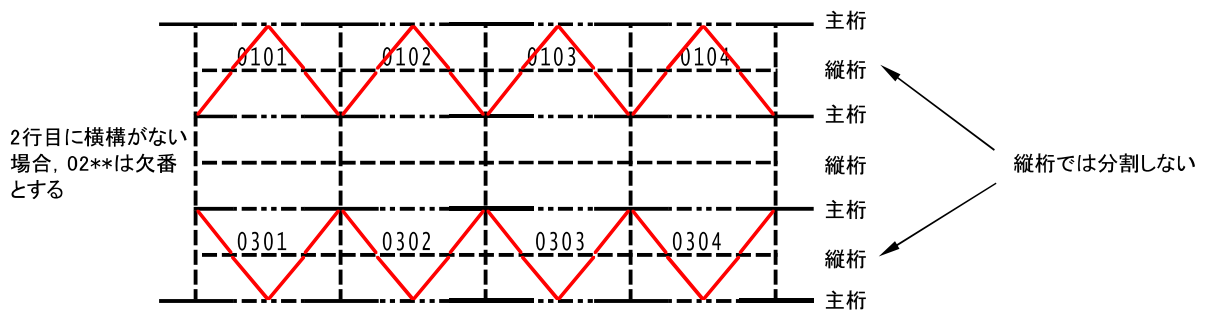


b) 斜橋の例



必ず列番号が揃うようにする。

c) 縦桁がある例

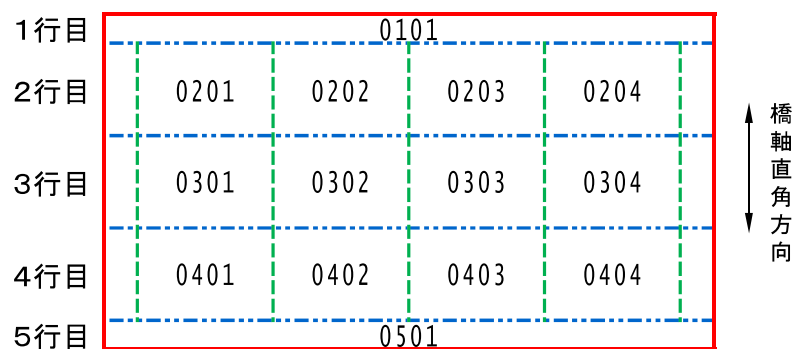


付図-3. 2 要素番号例 (その5)

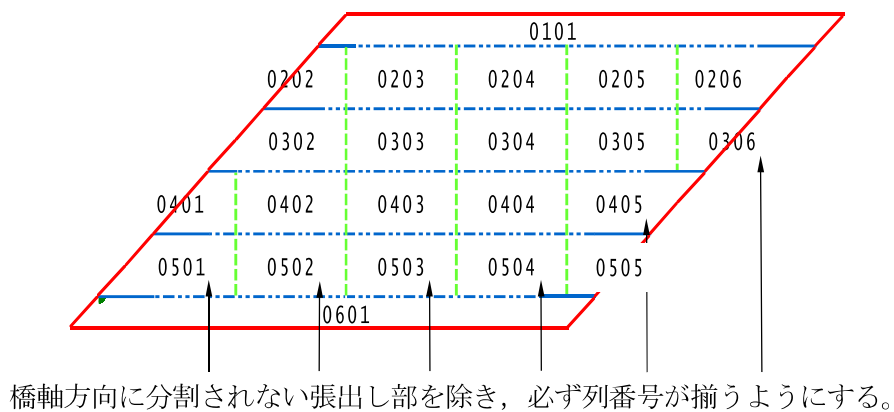
⑤床版(D)

- ・橋軸方向は横桁, 対傾構, ブラケット, 隔壁, ダイアフラムで, 橋軸直角方向は主桁で分割する。なお, 縦桁では分割しない。
- ・トラス橋, アーチ橋等で, 縦桁で分割を行わないと橋軸直角方向の分割がなくなる場合は, 縦桁で分割する。
- ・張出部の橋軸方向への分割は, 行わない。ただし, ブラケットがある場合は, ブラケットで分割する。

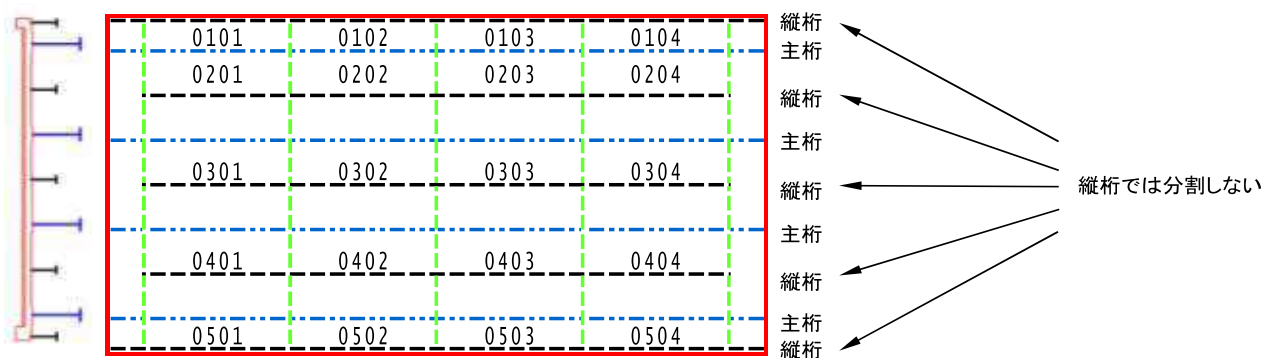
a) 標準例



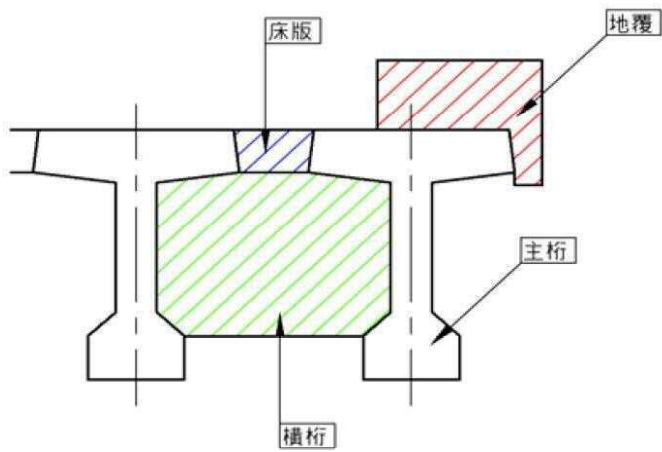
b) 斜橋の例



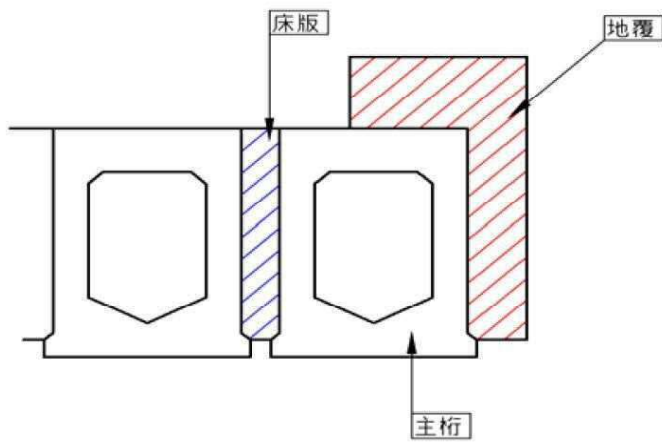
c) 縦桁とブラケットがある例



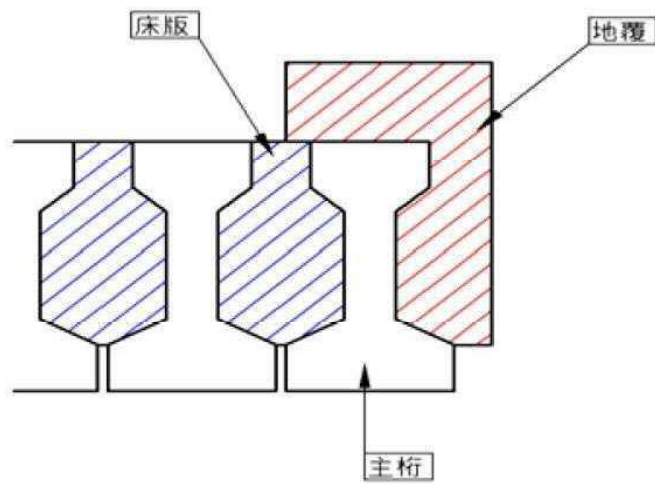
d) T桁の例



e) ホロー桁の例



f) I桁の例

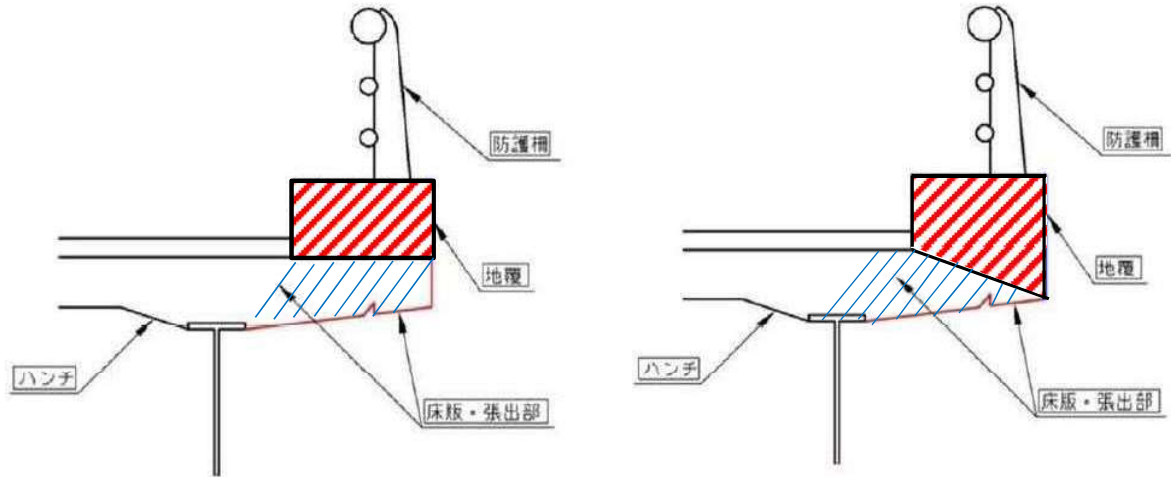


g) 床版と地覆部境界部の例

- ・ 鋼桁，RC床版の場合で，床版と地覆の境界が明確でない場合は，下面を床版，側面を地覆とする。

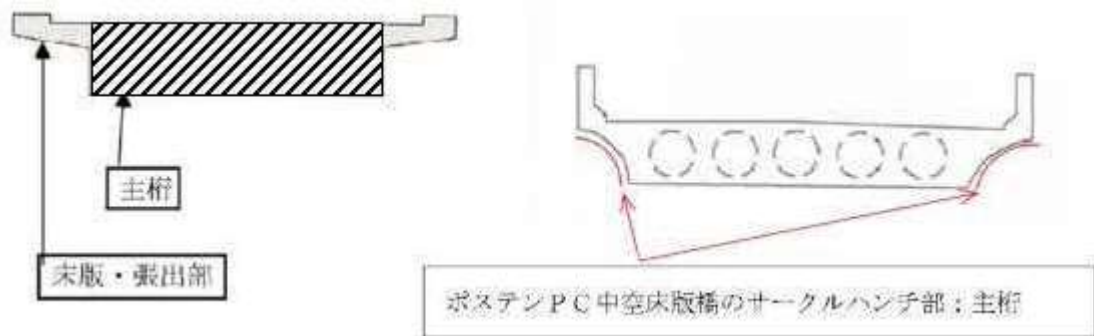
ア) 外面側に明確な目地がある場合

イ) 外面側に明確な目地がない場合



h) 床版橋の例

- ・ 床版橋，中空床版橋の下面は「床版」ではなく，「主桁」である。
- ・ 張出部のみが，床版である。
- ・ ただし，ポステン中空床版橋のサークルハンチ部は，主桁である。

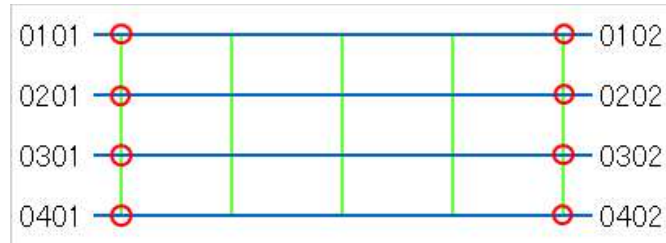


付図－3. 2 要素番号例（その6）

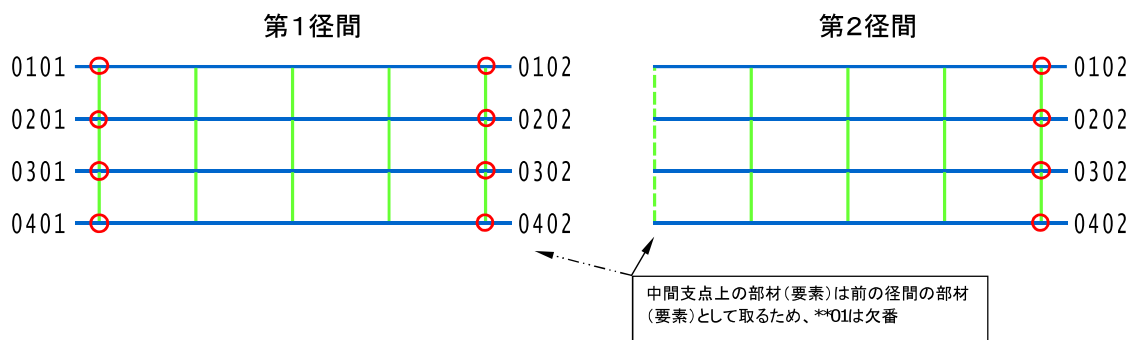
⑥ 支承(B₁, B₂, B_n, B)

- 要素番号の前2桁が橋軸方向の並び(行)を示し、後2桁が橋軸直角方向の並び(列)を示す。よって、I桁の場合、前2桁が主桁の部材番号と同一となり、後2桁は「01」が起点側支承、02」が終点側支承となる。

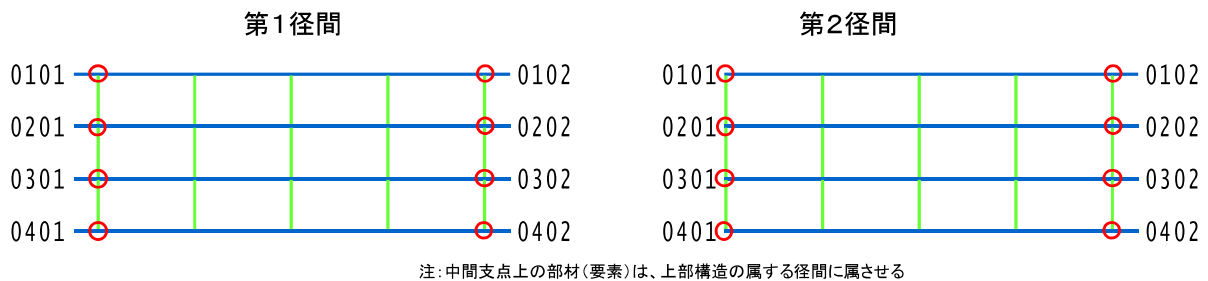
a) 標準例



b) 連続桁の例

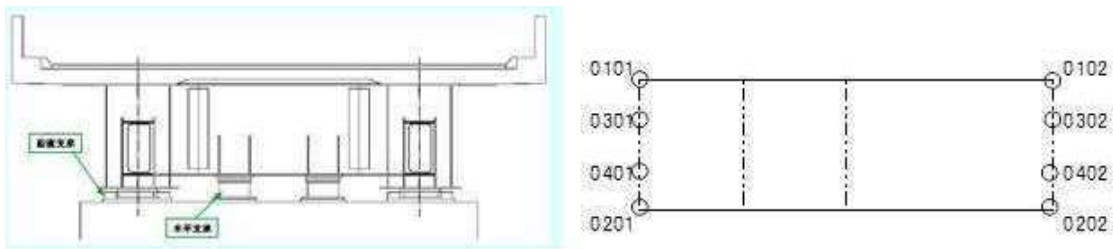


c) 連結桁の例



d) 機能分離型支承の例

- 付番は、桁に取り付いている支承を優先する。

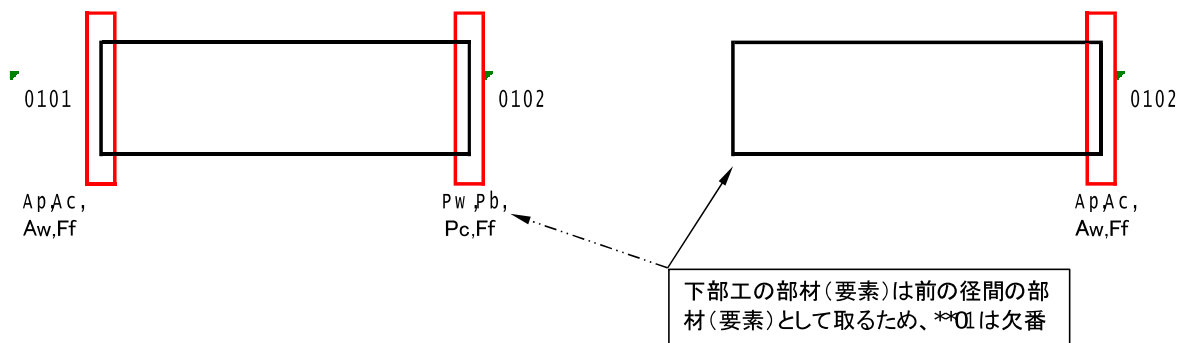


付図-3. 2 要素番号例 (その7)

⑦橋脚、橋台、基礎(P_w P_b, P_c, A_p, A_c, A_w F_f)

- ・ 1径間目(単径間を含む。)は、起点側下部構造を「**01」, 終点側下部構造を「**02」とする。
- ・ 2径間目以降は、起点側下部構造は起点側径間の部材(要素)とし、終点側下部構造を「**02」とする(「**01」が存在しない。)
- ・ なお、落橋を防止する目的で桁かかり長確保のために橋台・橋脚の天端を拡幅している場合においては、拡幅部は「落橋防止システム」とする(⑭参照)。

a) 標準例

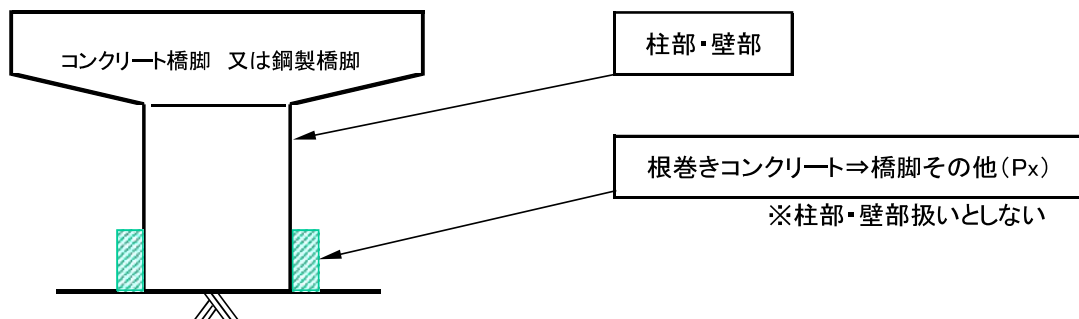


b) 橋軸直角方向に分離している例



c) 橋脚の根巻きコンクリートの例

- ・ 根巻きコンクリートは、橋脚その他(P_x)部材として扱う。

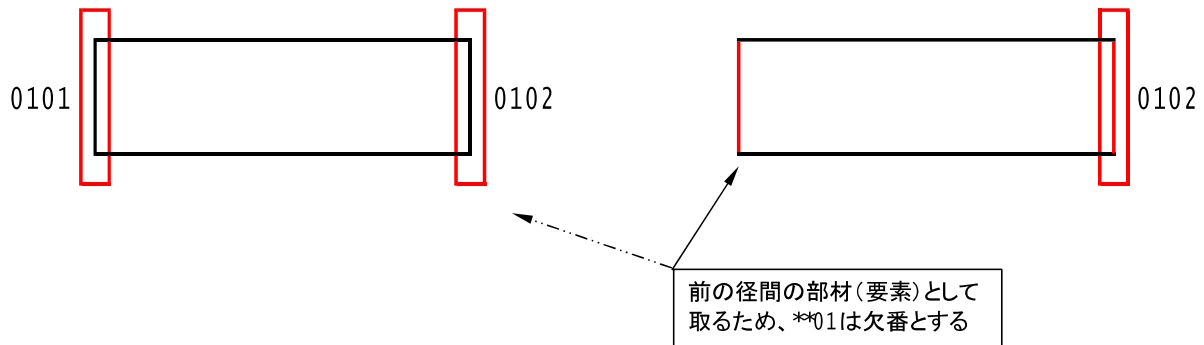


付図-3. 2 要素番号例(その8)

⑧伸縮装置(E)

- ・ 1径間目(単径間を含む。)は、起点側下部構造部を「**01」, 終点側下部構造部を「**02」とする。
- ・ 2径間目以降は、起点側下部構造部は起点側径間の部材(要素)とし、終点側下部構造部を「**02」とする(「**01」が存在しない。)

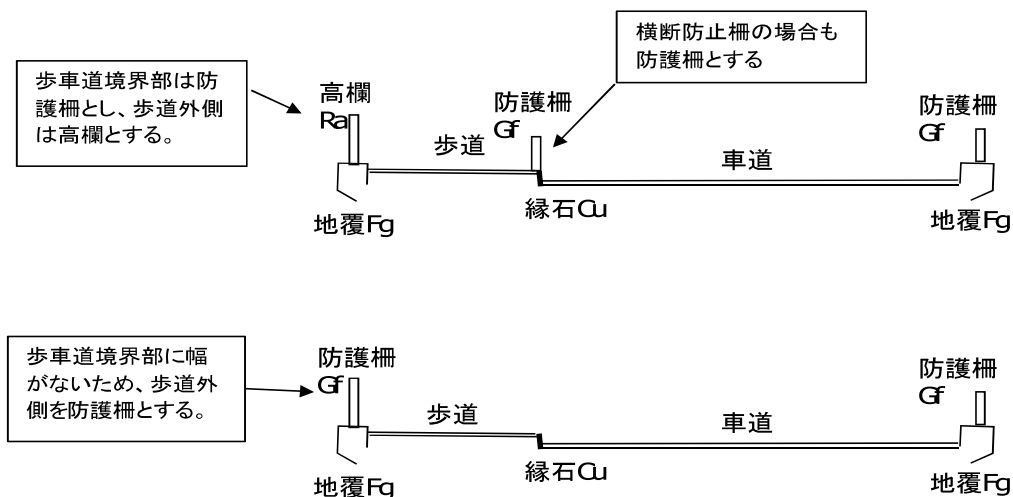
ア)標準例



付図-3. 2 要素番号例(その9)

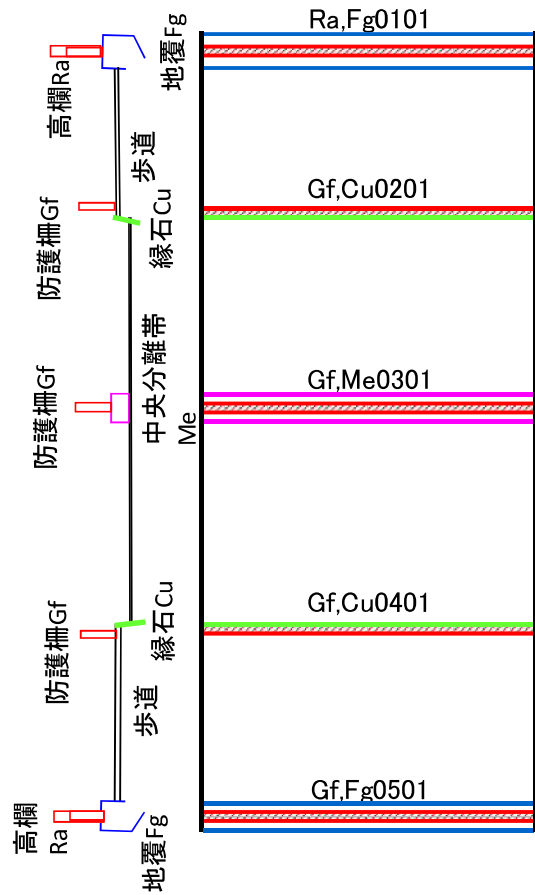
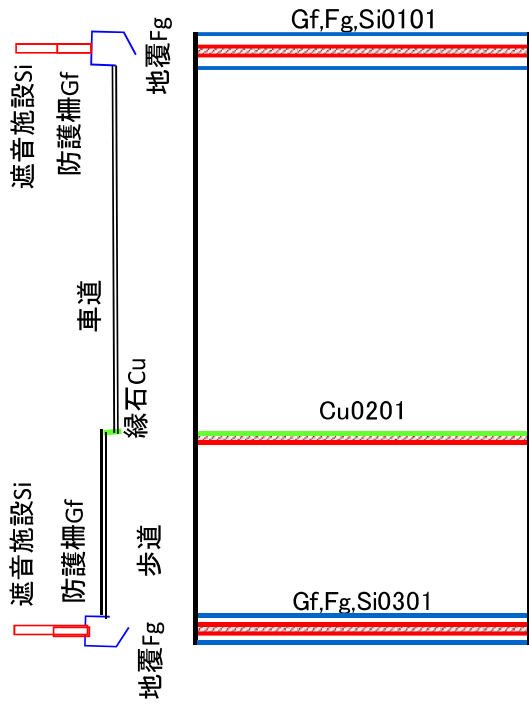
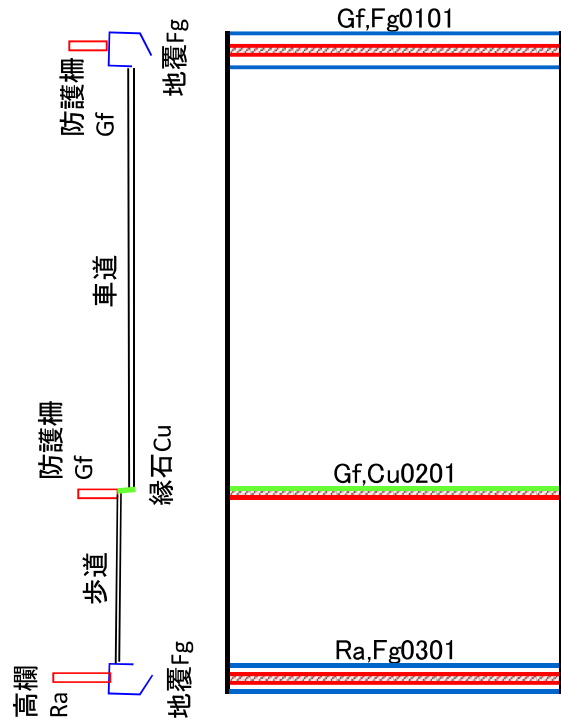
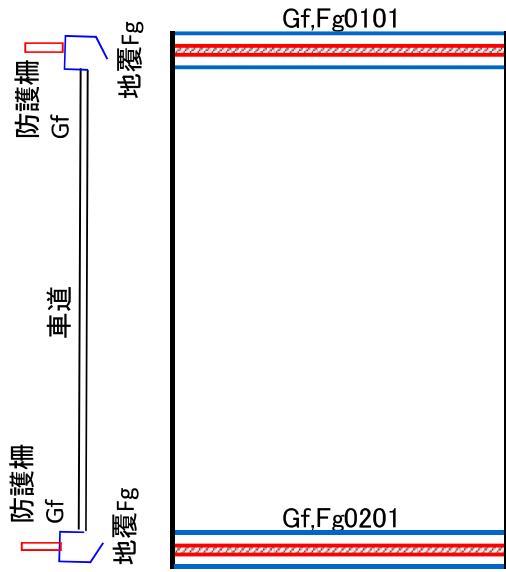
⑨高欄(Ra), 防護柵(Gf), 地覆(Fg), 縁石(Cu), 遮音施設(S), 中央分離帯(M)

- ・ 高欄, 防護柵の使い分けは, 設計基準は考慮せず, 車両が衝突する可能性がある(最も車道よりの)ものを防護柵とする。



- ・ 高欄, 防護柵等の路上施設は, 部材単位に付番するのではなく, 橋軸方向の全体の位置で付番する。
- ・ 地覆と縁石, 防護柵と高欄は連番とし, それぞれ位置ごとの行番号が揃うようにする。

a) 標準例



b) プレテン桁のコンクリート防護柵の例

防護柵・地覆の部材区分は、次のとおりとする。

○外面側に明確な目地がある場合(例-1参照)

- ・外面側 ----- 目地から上は防護柵とし、目地から下は地覆とする。
- ・内面側 ----- 直壁型：地覆と防護柵を分ける。

フロリダ型・単スロープ型：全て防護柵とする。

○外面側に明確な目地がない場合(例-2参照)

- ・全て防護柵（不明確な仮想線による分割は行わない。）
- ・また、損傷図には断面位置がわかるような表記を行う。

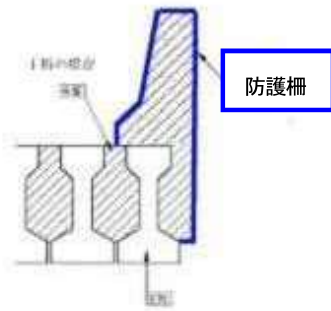
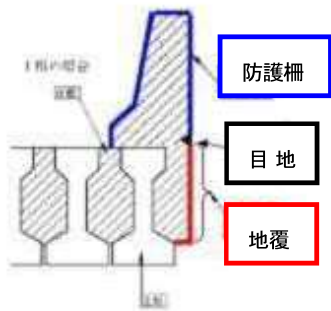
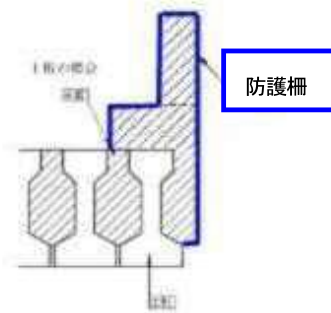
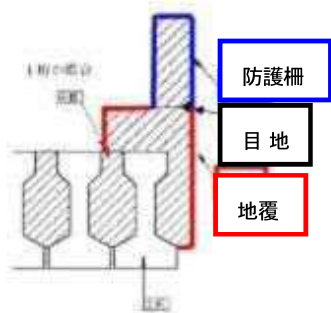
例-1

外面側で分けられる場合



例-2

外面側で分けられない場合

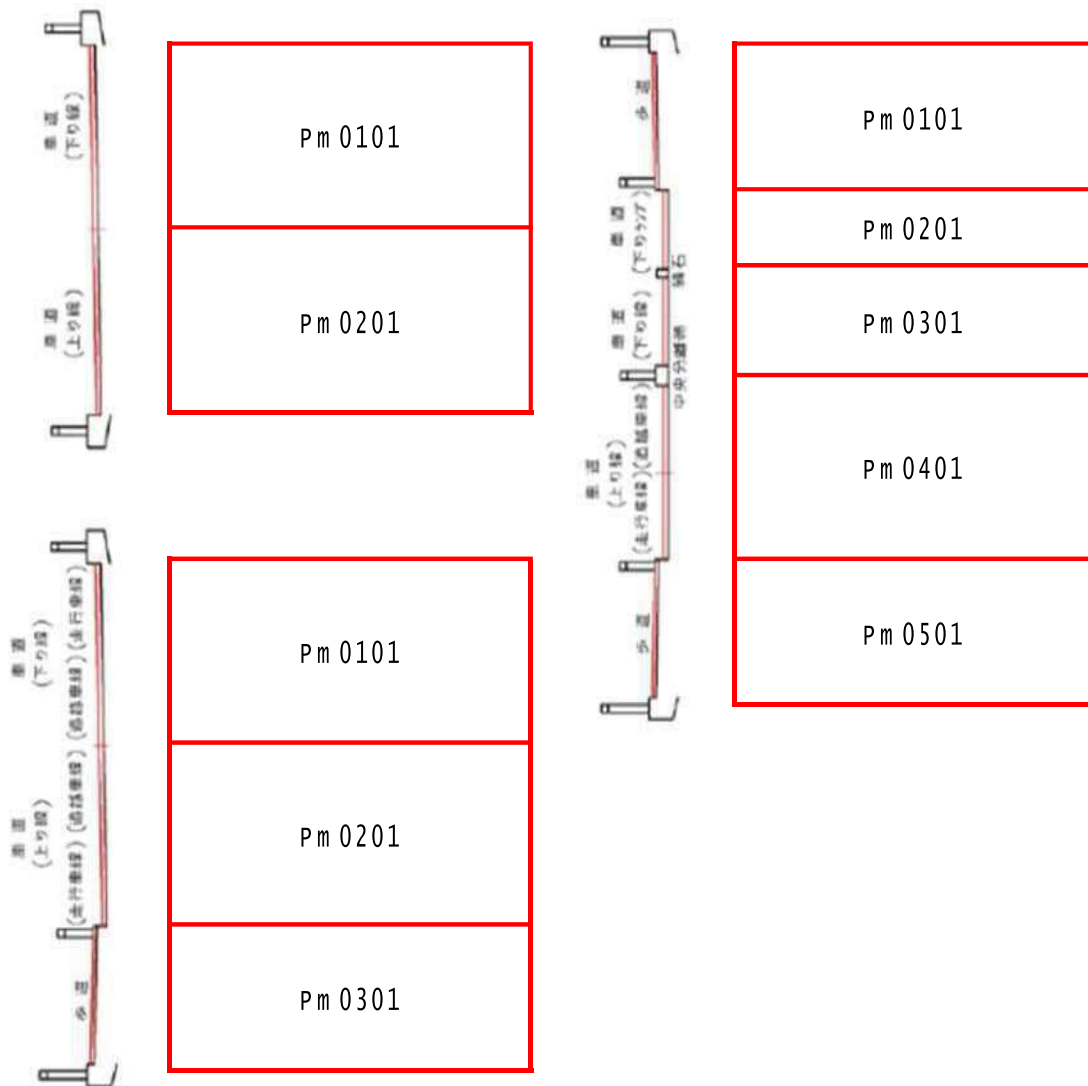


付図-3. 2 要素番号例 (その10)

⑩舗装(Pa)

- ・舗装は、車道部については、上下線または防護柵、縁石、中央分離帯で区切られた区画で分割する。
- ・歩道部と車道部は、分割する。
- ・上下線それぞれ複数の車線があっても、防護柵等で分離されていない場合は、分割しない。(上下線の分割のみ行う)

ア)標準例

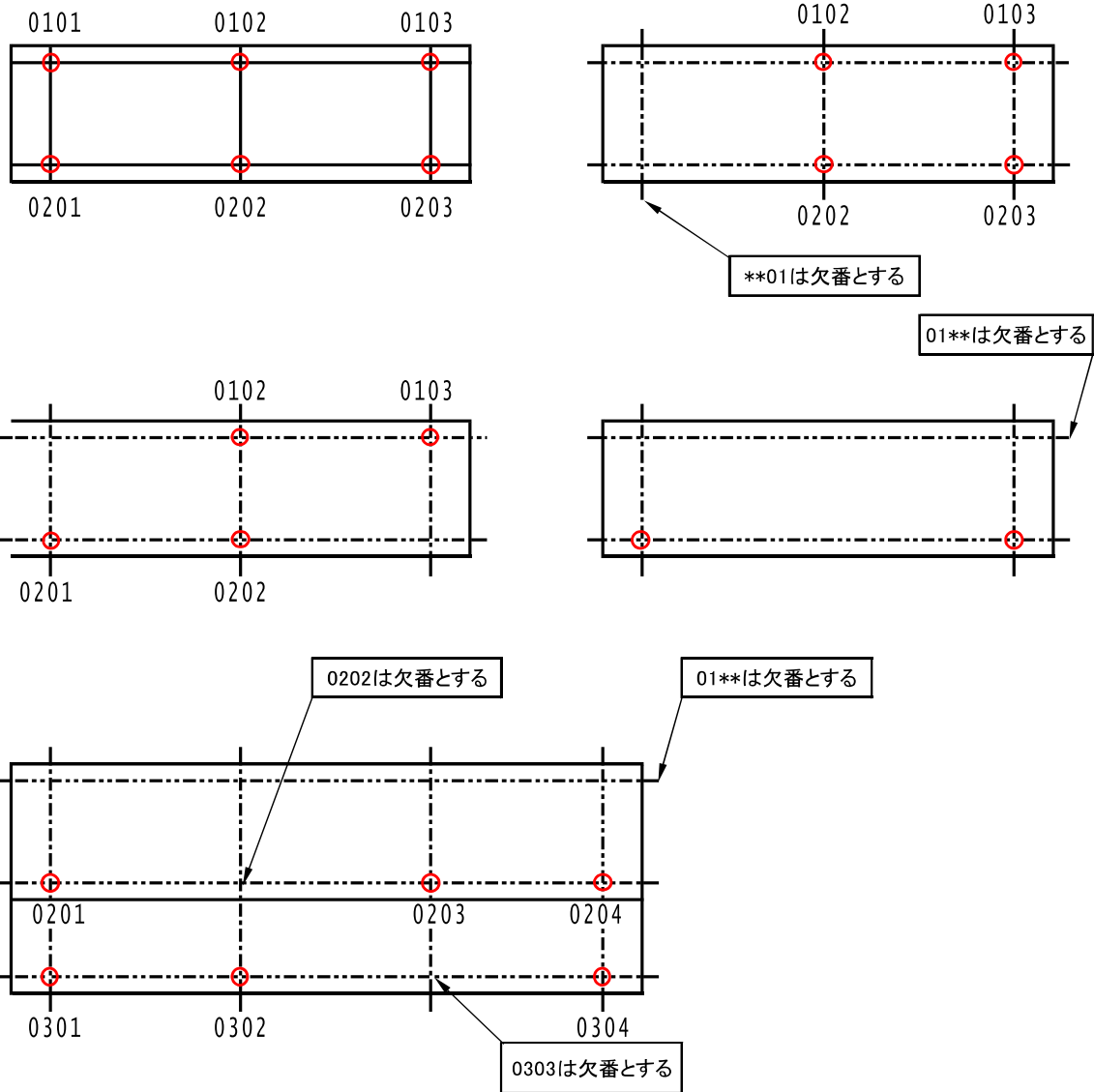


付図－ 3. 2 要素番号例 (その 1 1)

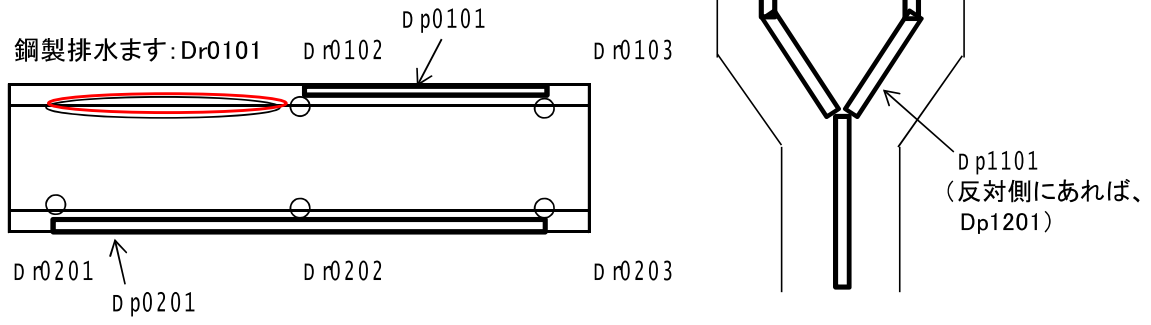
⑪排水施設(D, Dp)

- ・排水施設（排水ます，排水管，その他）のある位置ごとに付番する。
- ・上部構造に設置の排水管は，橋軸方向の全体の位置で付番する。
- ・下部構造に設置の排水管は，設置された下部構造の面毎に付番し，要素番号の左側の桁を「1」とする。
- ・鋼製排水溝は，排水ます（D）とする。

ア)標準例



イ) 排水管，鋼製排水溝の例

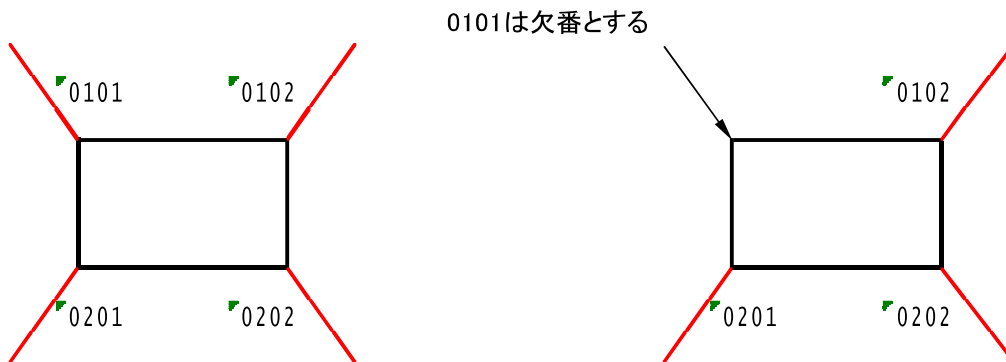


付図－3. 2 要素番号例 (その12)

⑫袖擁壁(W)

・袖擁壁のある位置ごとに付番する。

a) 標準例

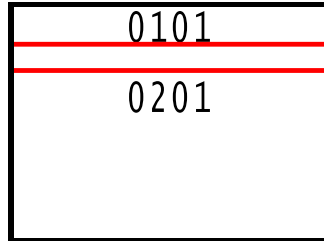


付図－3. 2 要素番号例 (その13)

⑬添架物(U), 点検施設(Ip)

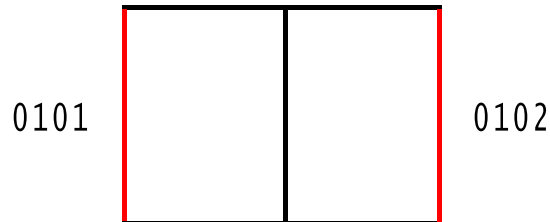
a) 橋軸方向の例

- ・ 橋軸方向は, G1 桁側から 0101, 0201……と付番する。



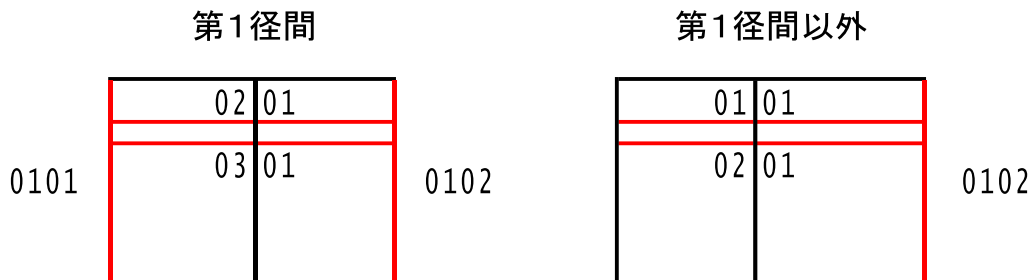
b) 下部構造（橋軸直角方向）に添架の例

- ・ 下部構造（橋軸直角方向）に添架されたものは, 下部構造の要素番号に合わせ, 0101, 0201……（起点側）, 0102, 0202……（終点側）と付番する。



c) 混在の例

- ・ 橋軸方向と下部構造（橋軸直角方向）に添架が混在する場合は, 次を基本とする。

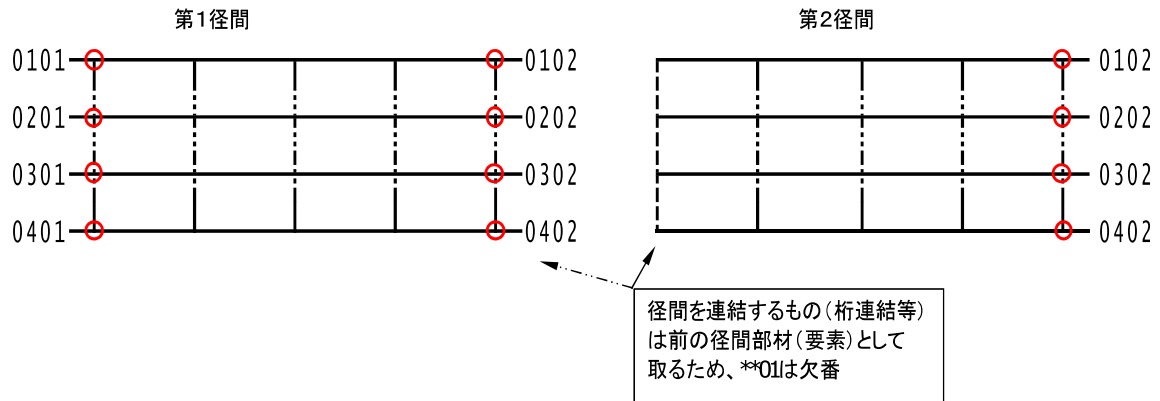


付図－3. 2 要素番号例（その14）

⑭落橋防止システム(SF)

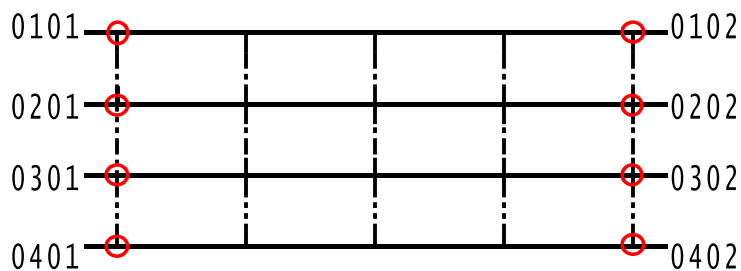
a) 径間毎に独立の例

- ・ 支承の付番方法に準じ、径間毎に独立しているものは各径間の部材とし、径間を連結するものは若い番号順の径間部材とする。



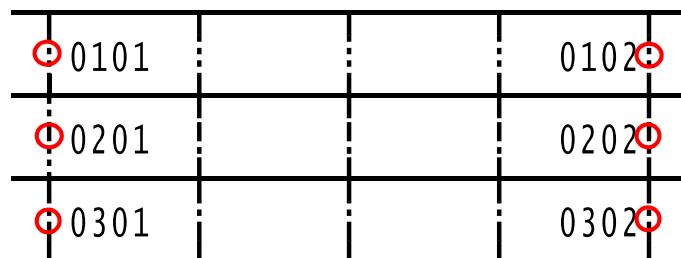
b) 桁関連の例

- ・ 桁に取り付いているもの、または桁直下等に取り付いているものの要素番号は、桁の番号に合わせる。



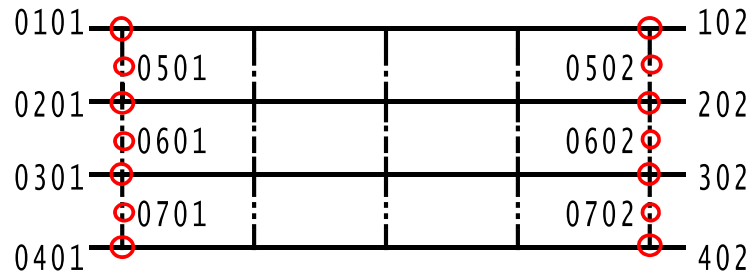
c) 桁間の例

- ・ 桁間を跨ぐもの、または桁間に設置されたものは、若番側の桁番号に合わせる。



d) 混在の例

- ・桁に取り付いているもの、または桁間を跨ぐものが混在する場合は、桁に取り付いているものを優先する。



e) 新旧混在の例

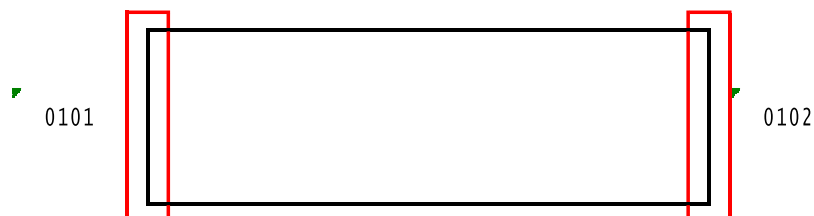
- ・新旧の落橋防止システムが存在する場合、旧落橋防止システムの番号は変更せず、新しい落橋防止システムには続き番号を付す。なお、材料による区分はしない。



f) 天端拡幅部の例

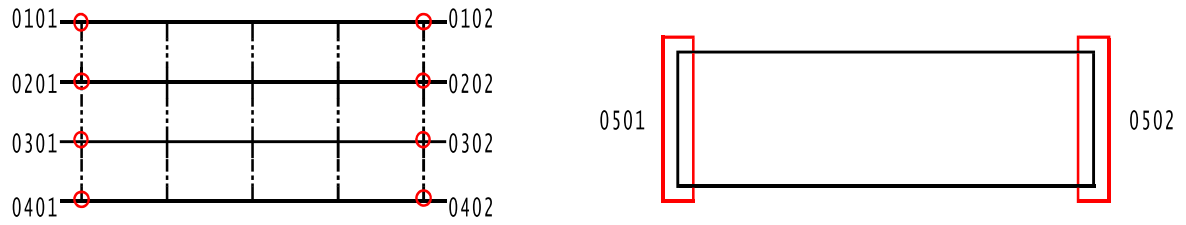
- ・落橋を防止する目的で桁かかり長確保のために橋脚・橋台の天端を拡幅している場合においては、拡幅部は、落橋防止システムとする。この場合、RC構造で前面拡幅されているものについては、下部構造の要素番号に合わせる。

なお、新設既設に拘わらず、落橋防止システムとする。



g) 天端拡幅部との混在の例

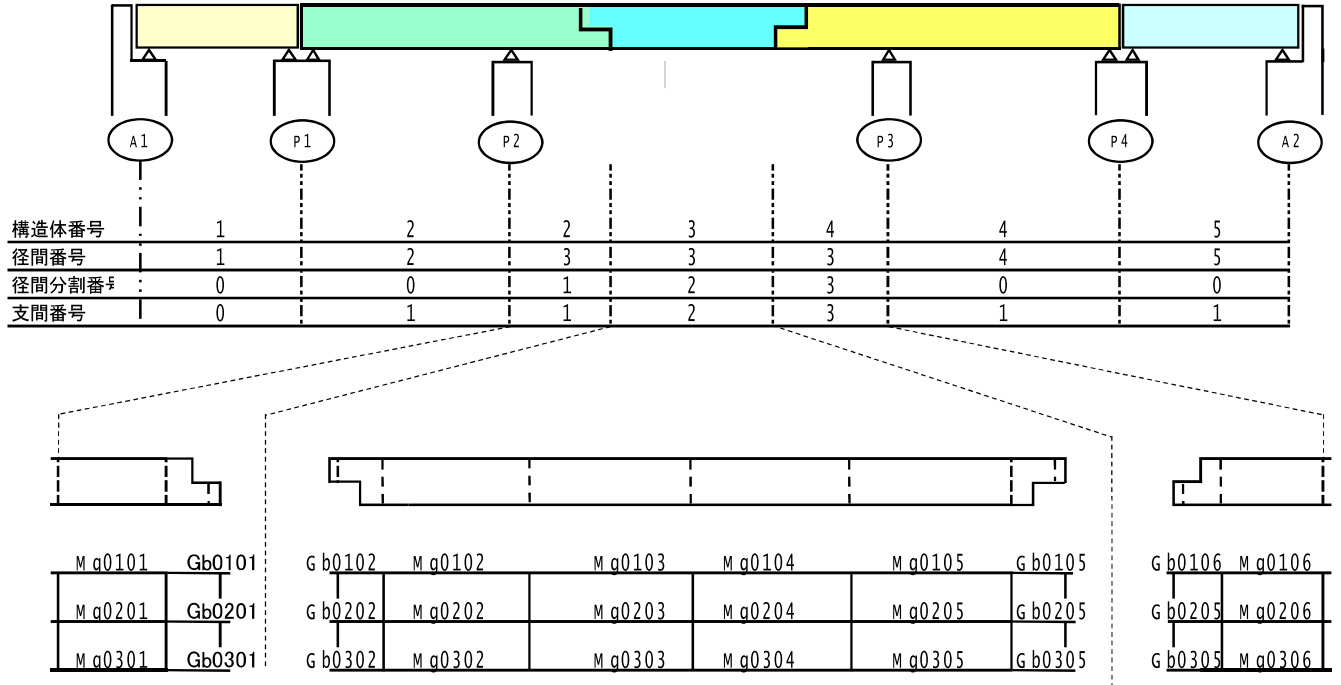
・上部構造付き落橋防止システムと橋脚・橋台等の天端拡幅部が混在する場合は、上部構造に取り付いているものを優先する。



付図－3. 2 要素番号例（その15）

・ゲルバー部

a) 標準例



注：M q0101 の要素には，G b0101 の要素を含む。つまり，ゲルバー要素 G b0101 では，ゲルバー要素として損傷程度を評価する。一方，主桁要素 M q0101 では，ゲルバー要素 G b0101 を含めて損傷程度を評価する。他のゲルバー要素において同じ。

付図－3. 2 要素番号例（その16）

・ P C 定着部

P C 定着部の要素番号は、縦締め→横桁横締め→床版横締めの順番で付与する。

- ・ 横桁横締め，床版横締めが無い場合は，要素番号は付与しない。
- ・ P C 連結桁部の後打ちコンクリート部は横桁として扱うものの，P C 横締め定着部に起因する損傷はP C 定着部としても記録を行うため，番号の付与を行う。
- ・ 部材位置が異なる場合の要素番号の前2桁は，10番単位で切り上げる。

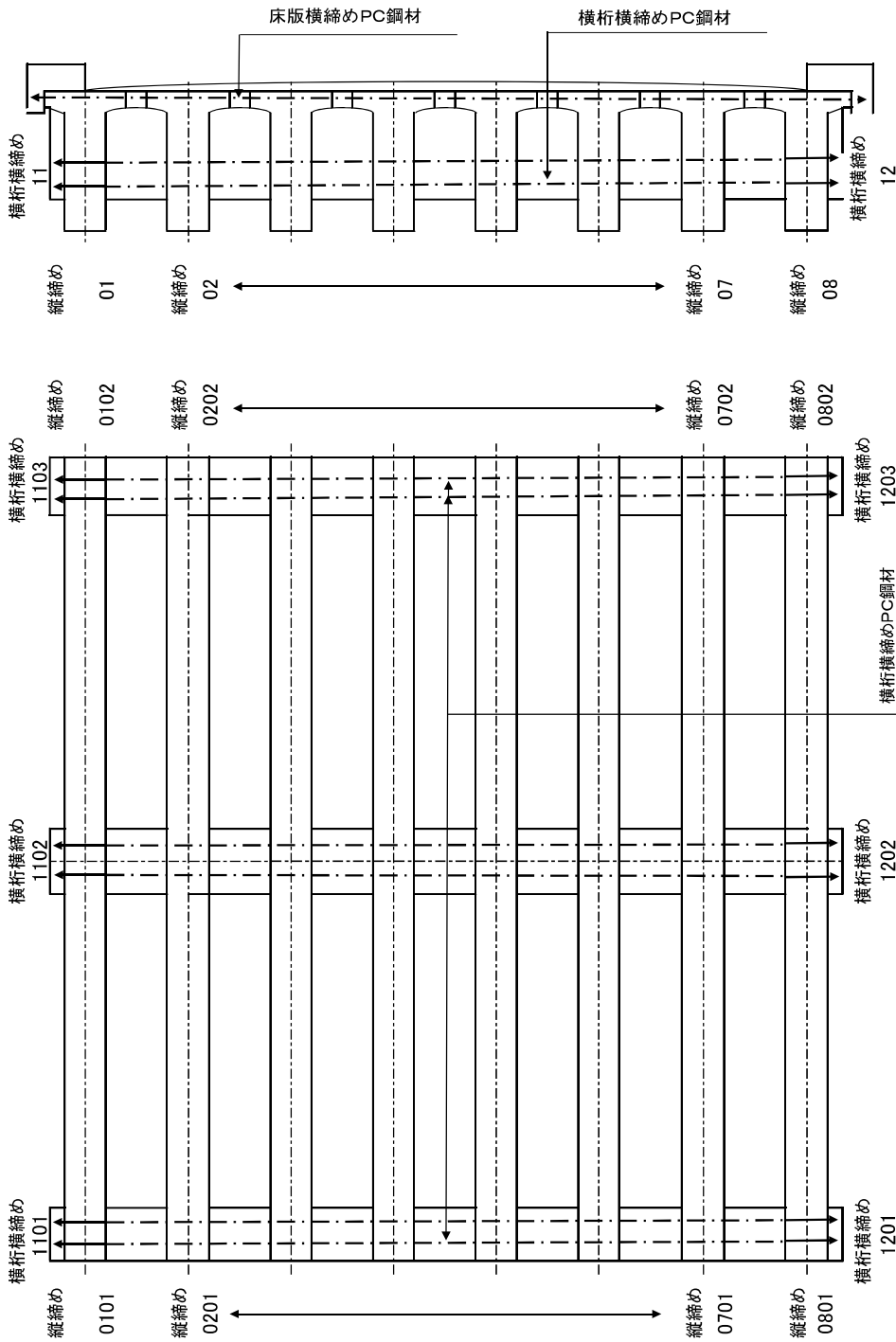
例：縦締め 0101, 0202, … 0801, …
 横締め 1101, 1201, … 1801, … (0901 からとはしない。)
 床版横締め 2101, 2201, … (1901 からとはしない。)

- ・ 一般的な構造形式と P C 定着部との関係は，次表のとおりである。

構造形式		定 着 部		
		縦締め	横締め	
			横桁	床板
プレテン	床 版 橋	△	△	—
	中空床版橋	△	△	—
	T 桁 橋	△	○	△
ポステン	中空床版橋	△	—	—
	T 桁 橋	△	○	△
	箱 桁 橋	△	○	△

注：○…定着位置が確定できる △…定着位置が確定できない —…定着がない

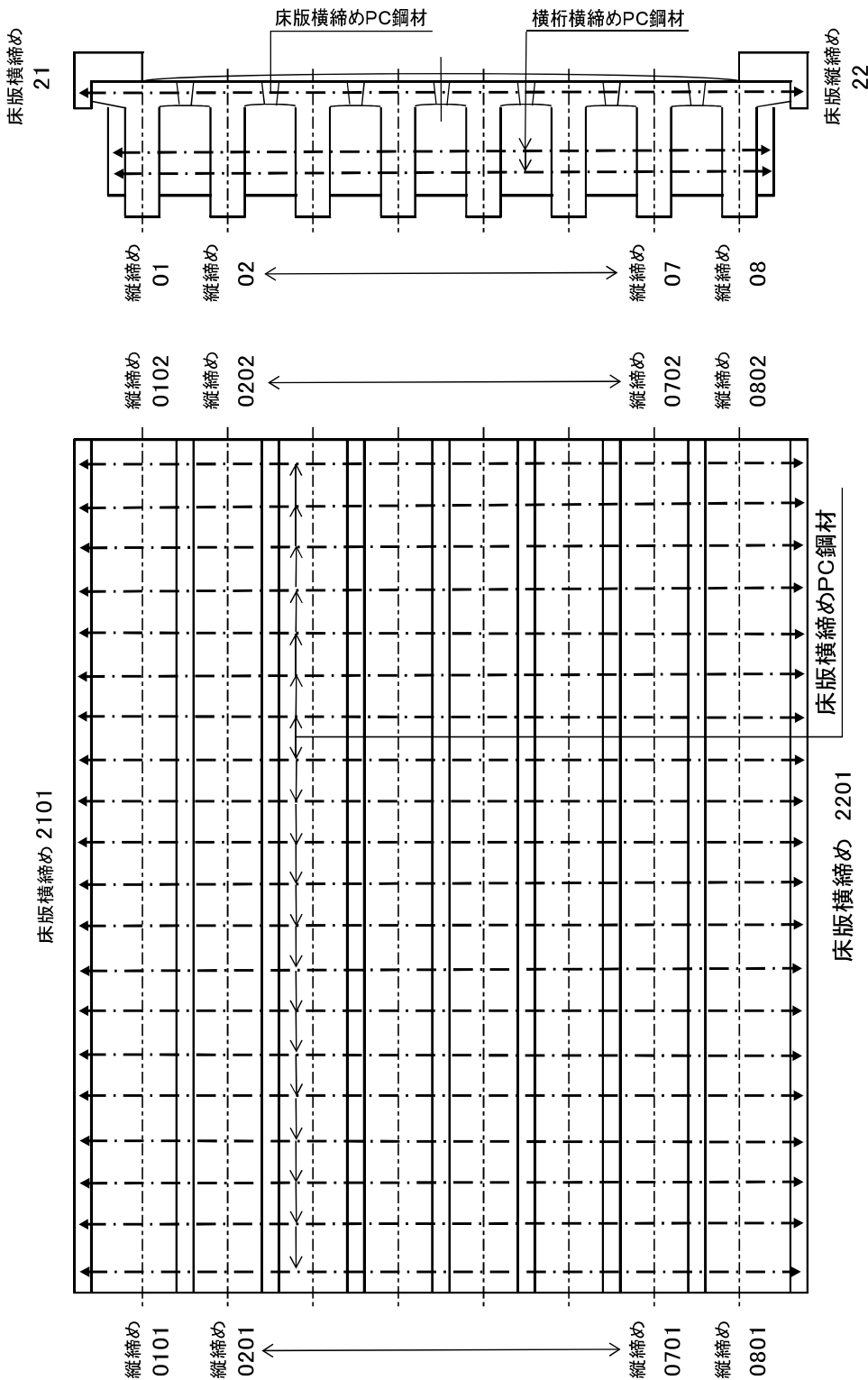
a) プレテン・ポステンT桁橋（横桁）の例



※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。

※本事例では、縦締めが01番から08番までであるため、横桁横締めは11番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

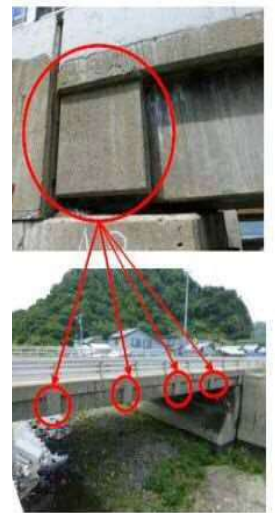
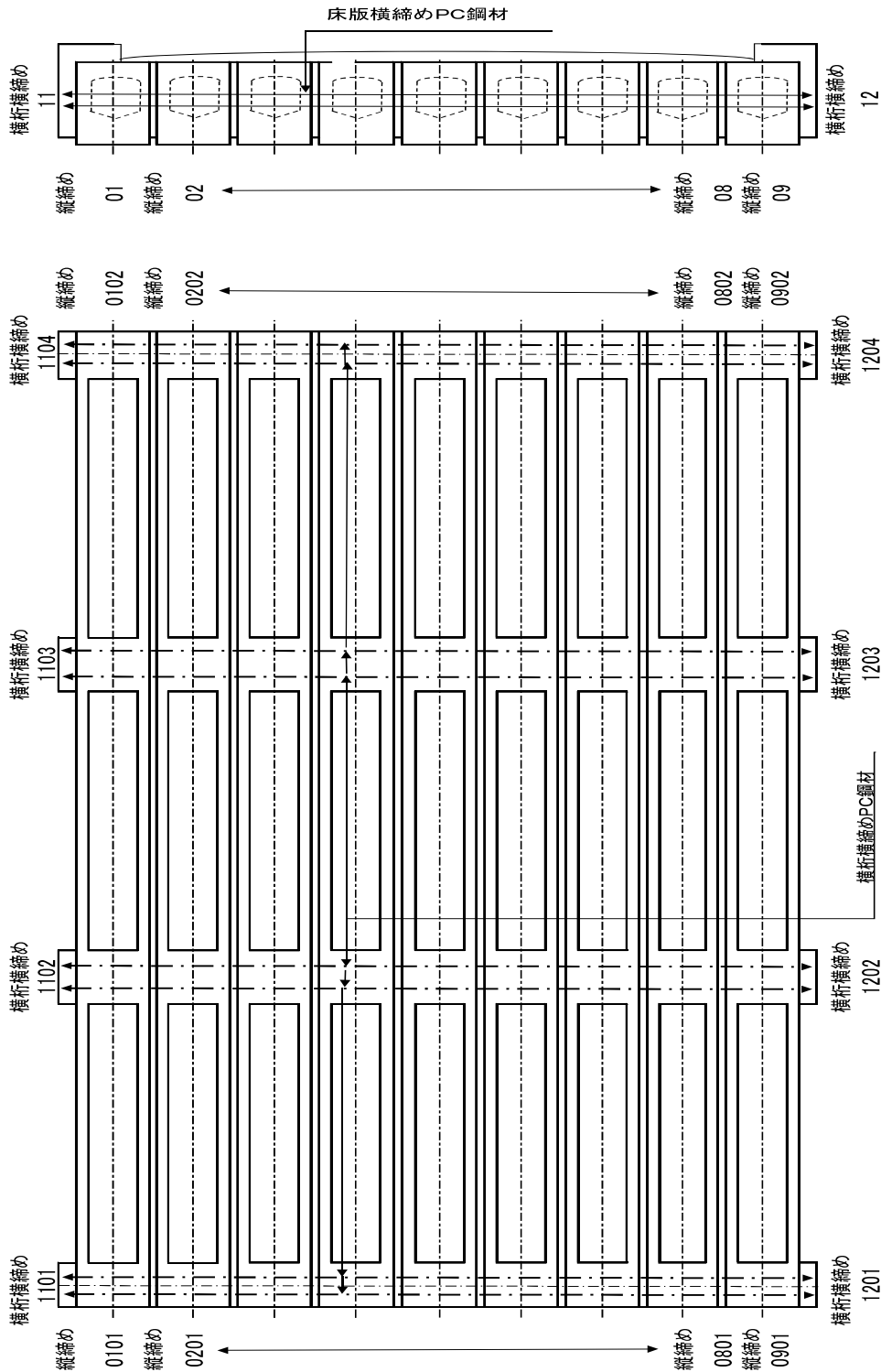
b) プレテン・ポステンT桁橋（床版）の例



※通常地覆水切りが上床版まで打ち下ろされているため、床版位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01版から08版まで、横桁横締めが11番から12番までであるため、床版は21番から始める。また、床版横締めの下2桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

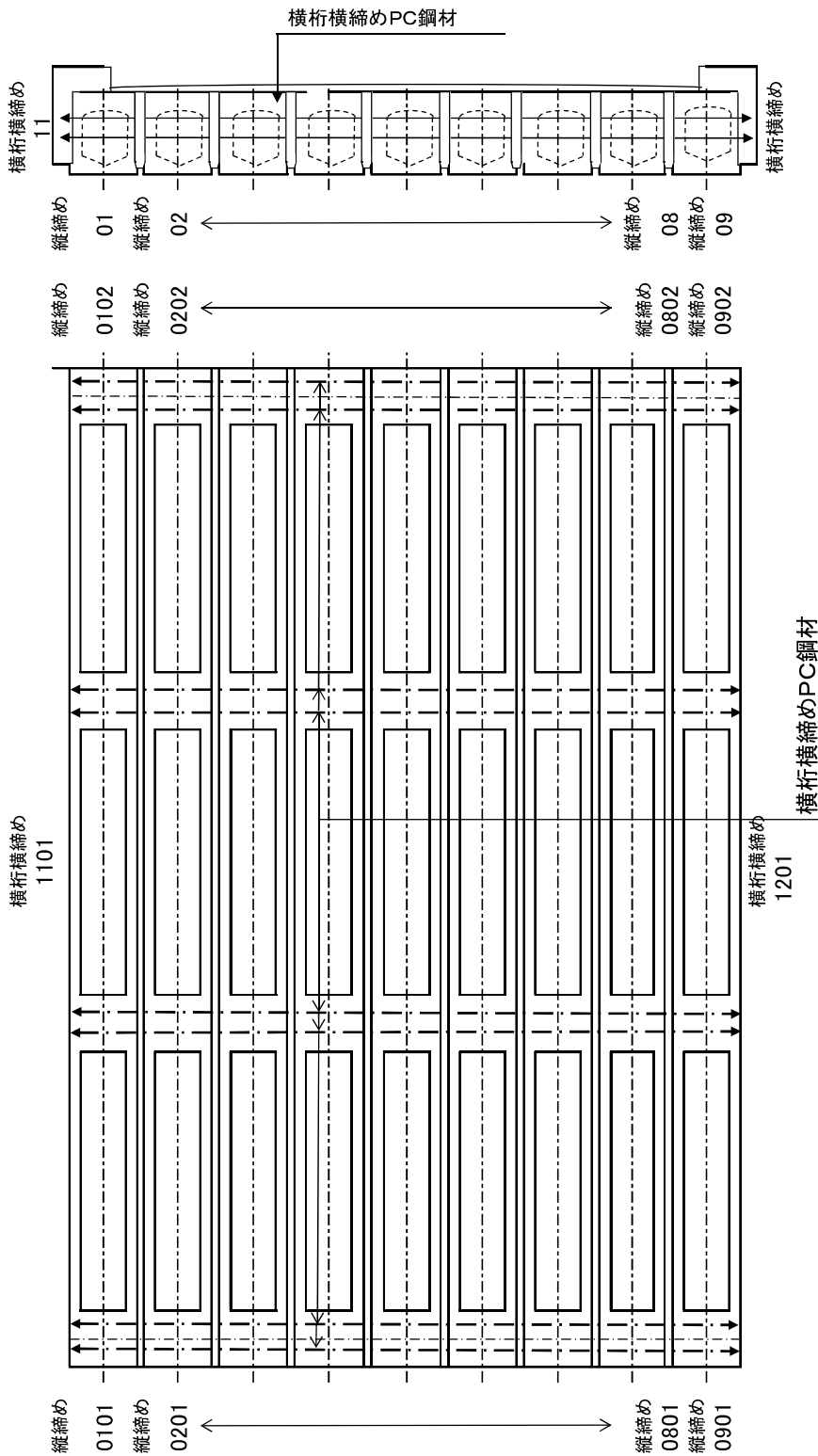
c) プレテン中空床版橋（横桁横締め位置が確定できる場合）の例



覆水切りが桁下まで打ち下ろさないため、横桁位置が確認する。

※本事例では、縦締めが01番から09番までであるため、横桁横締めは11番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

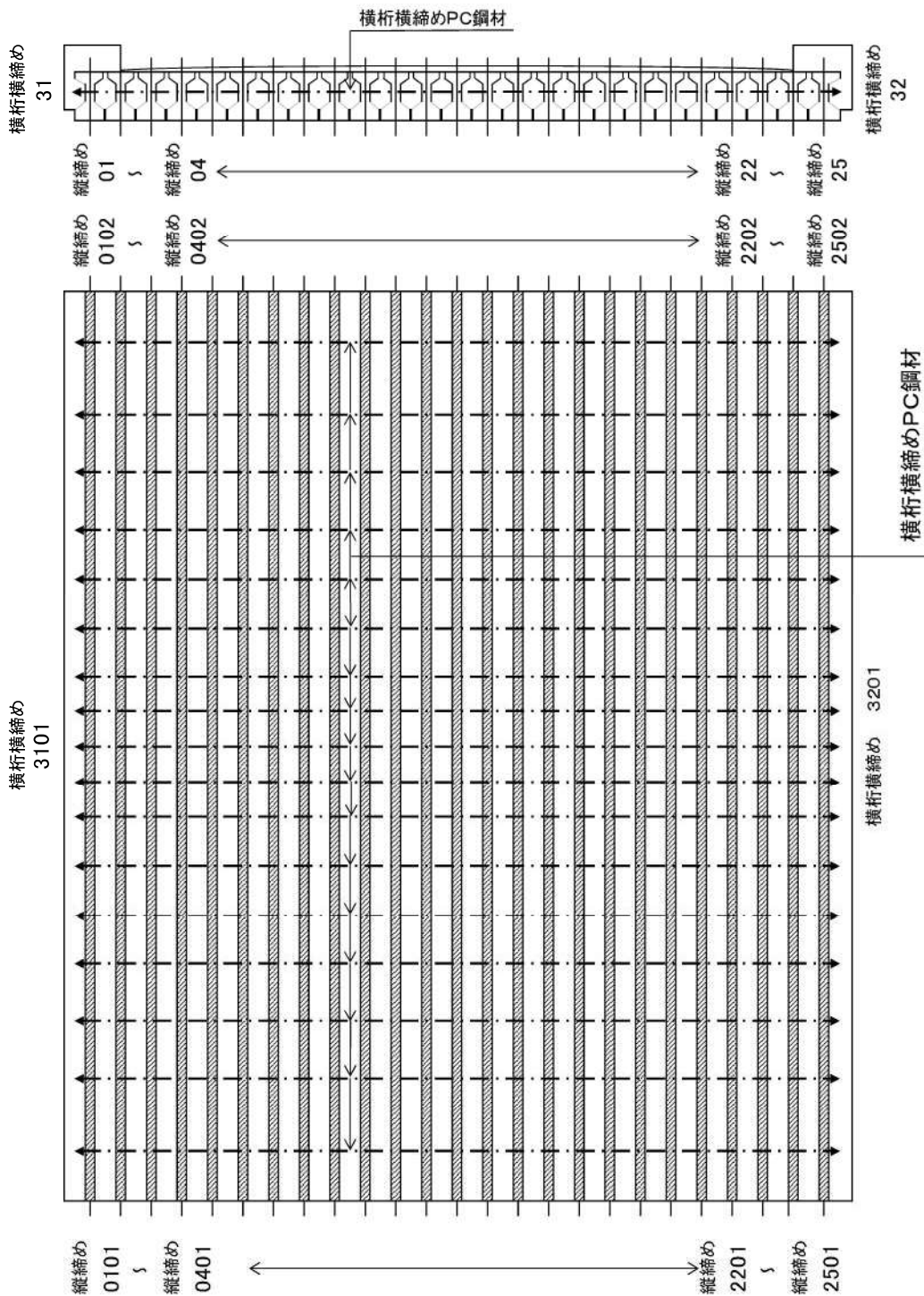
d) プレテン中空床版橋（横桁横締め位置が確定できない場合）の例



※地覆水切りが桁下まで打ち下ろされているため、横桁位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01番から09番までであるため、横桁横締めは11番から始める。また、横桁横締めの下2桁は、横桁の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

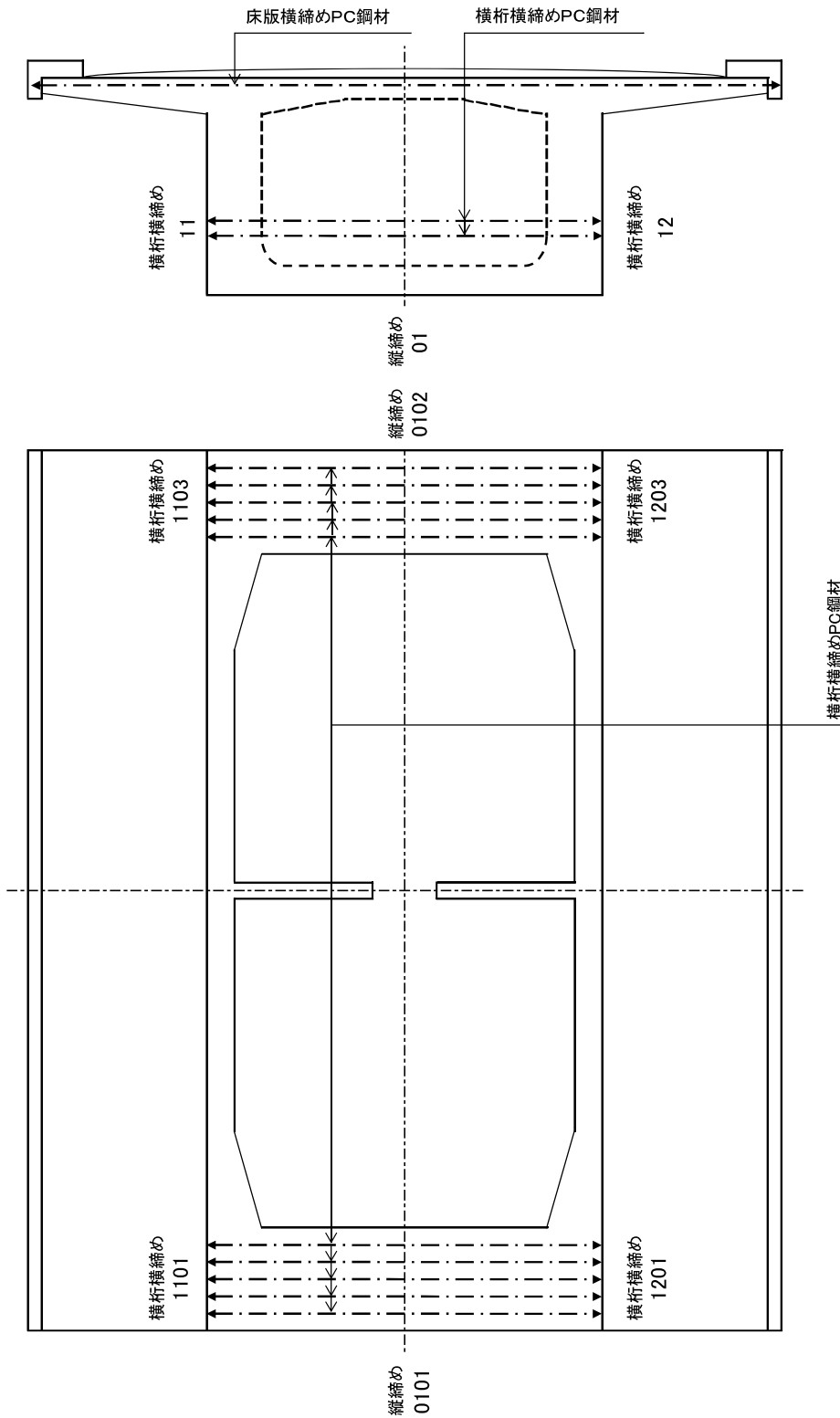
e) プレテン床版橋（横桁横締め位置が確定できない場合）の例



※通常地覆水切りが桁下まで打ら下ろされているため、横桁位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01番から25番までであるため、横桁横締めは31番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

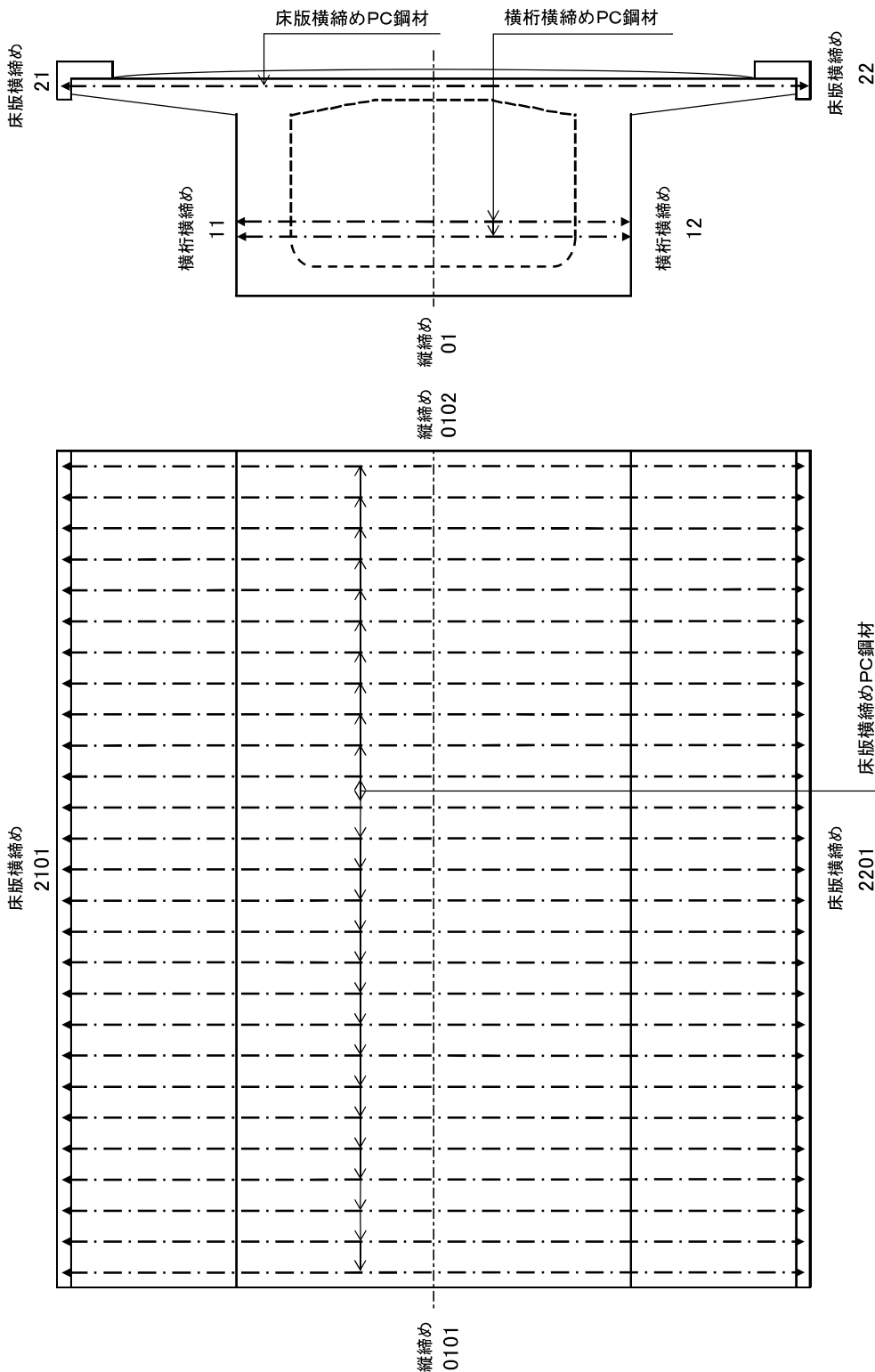
f) ポステン箱桁橋（横桁）の例



※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。

※ 本事例では、縦締めが01番とし、横桁横締めは11番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

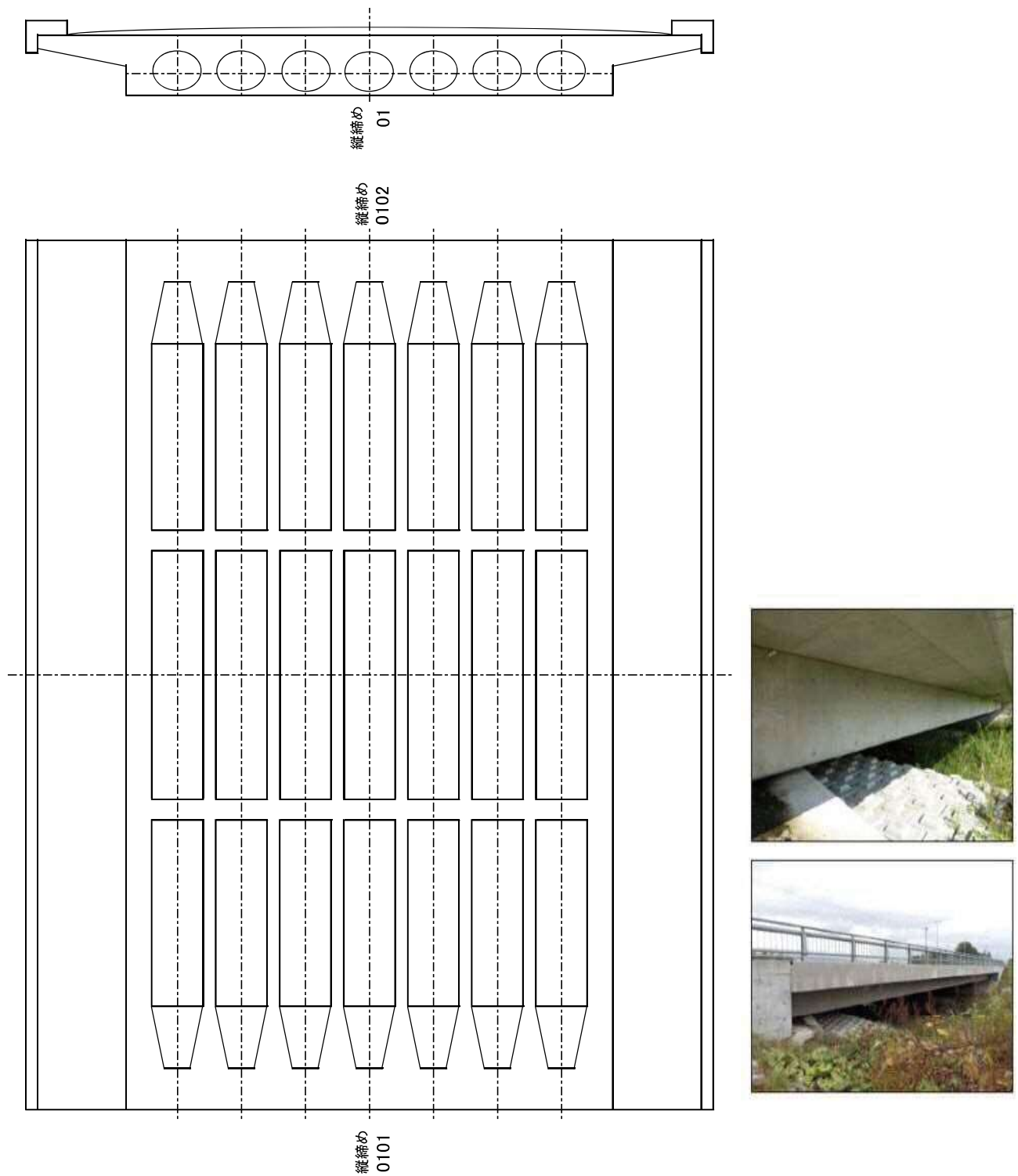
g) ポステン箱桁橋（床版）の例



※通常地覆水切りが上床版まで打ち下ろされているため、床版位置が確認できない。

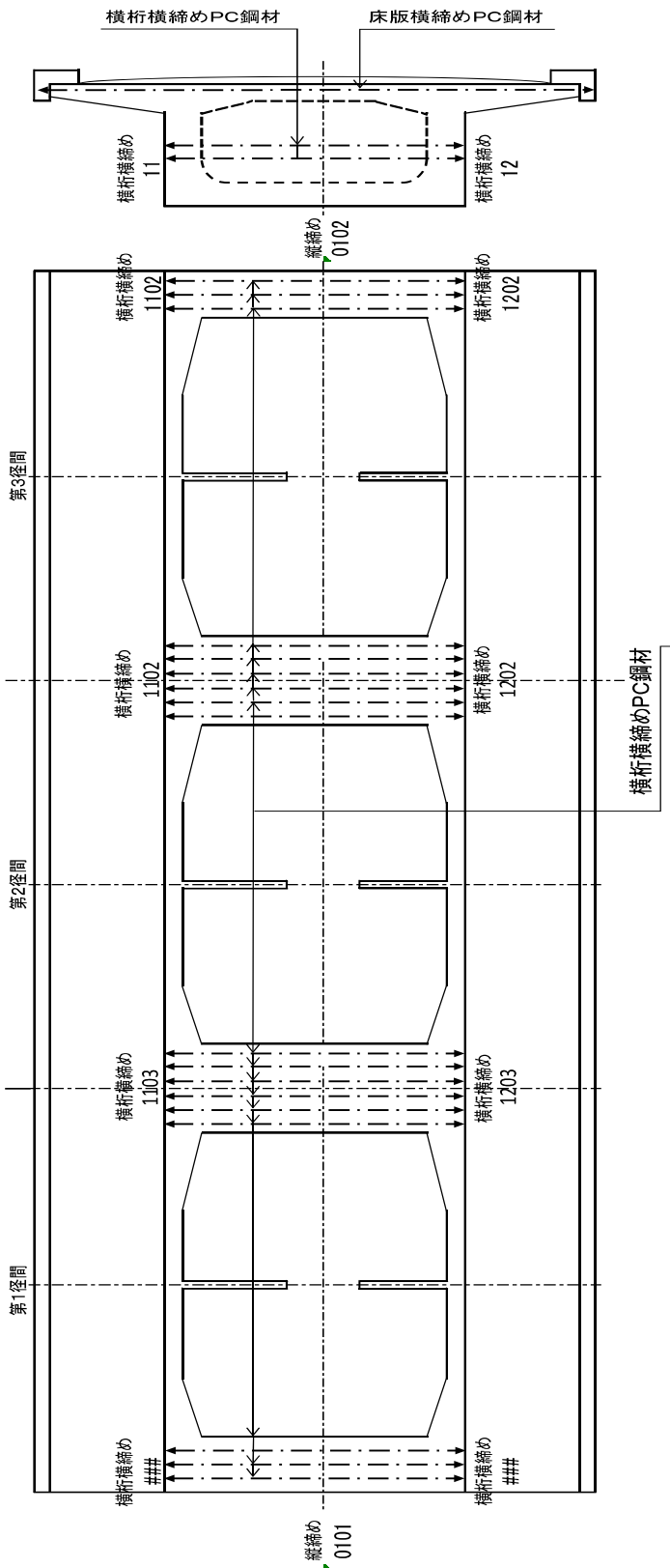
※ 本事例では、縦締めが01番から始まり、横桁横締めが11番から12番までであるため、床版は21番から始める。
 また、床版横締めの下2桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

h) ポステン中空床版橋の例



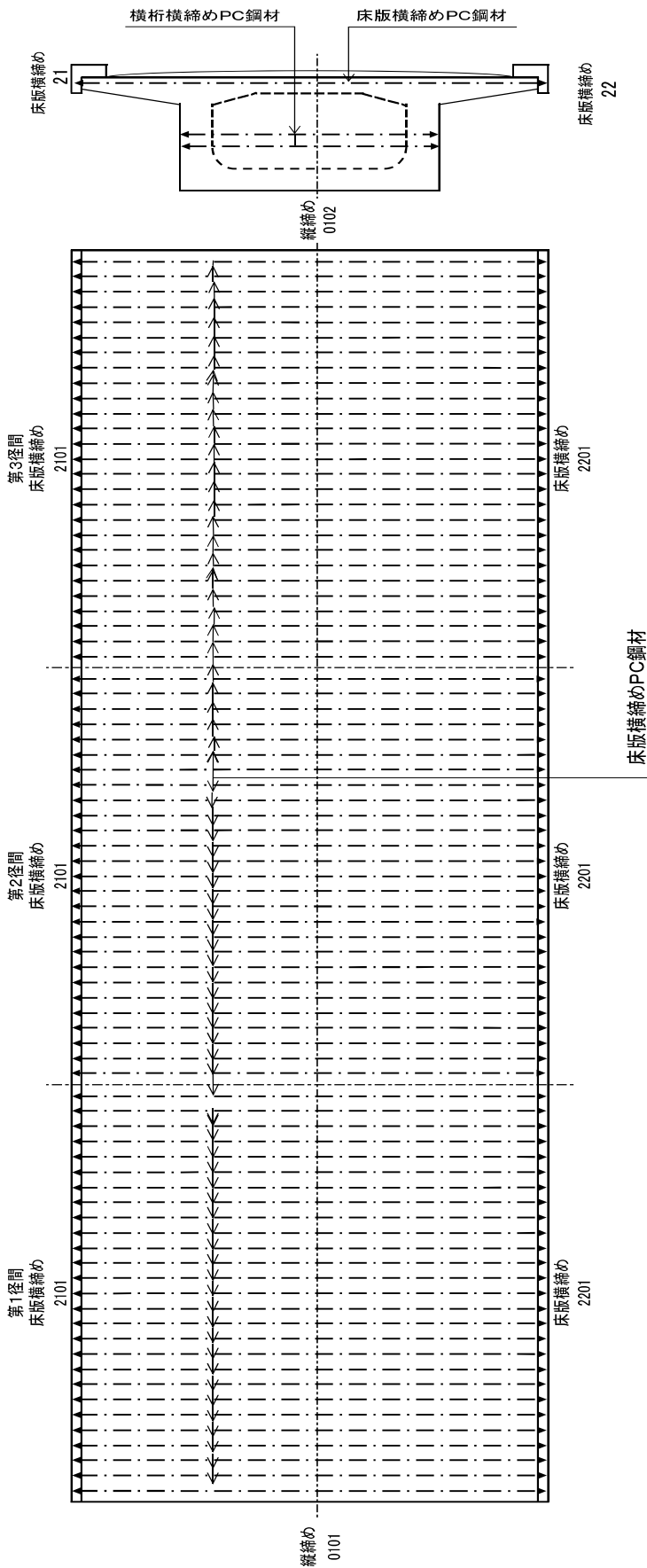
※ ポステン中空床版橋では、横桁・床版横締めはないため、横締めのみ要素番号を設定し01番とする。

i) ポステン 3 径間連続箱桁橋 (横桁)



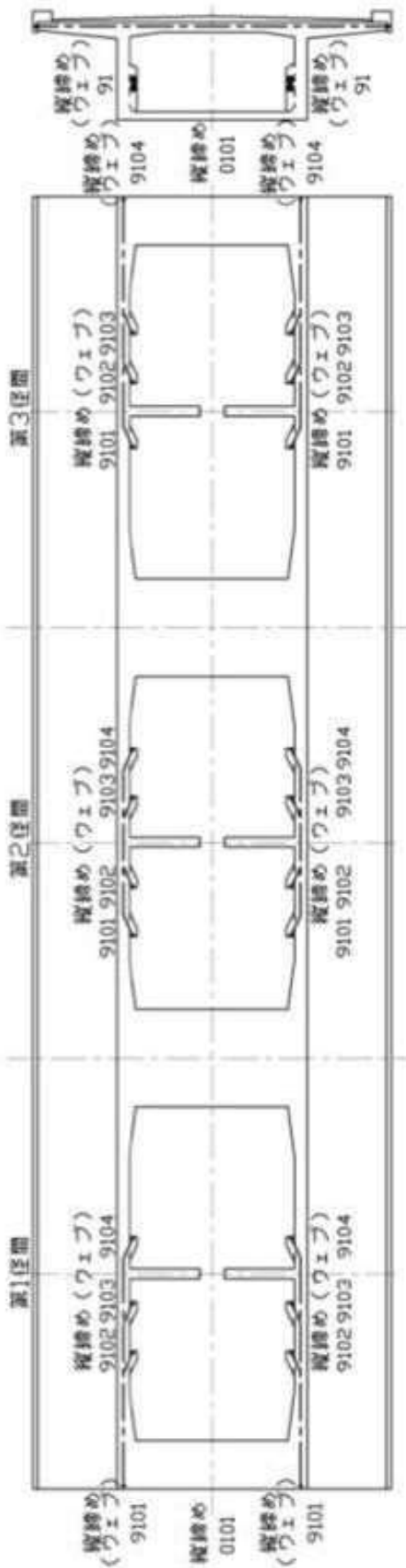
※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。本事例では、縦締めは0 1番とし、横桁横締めが1 1番から始める。また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。第1径間：1101, 1201, 1103, 1203 第2径間・第3径間：1102, 1202

j) ポステン 3 径間連続箱桁橋（床版）の例



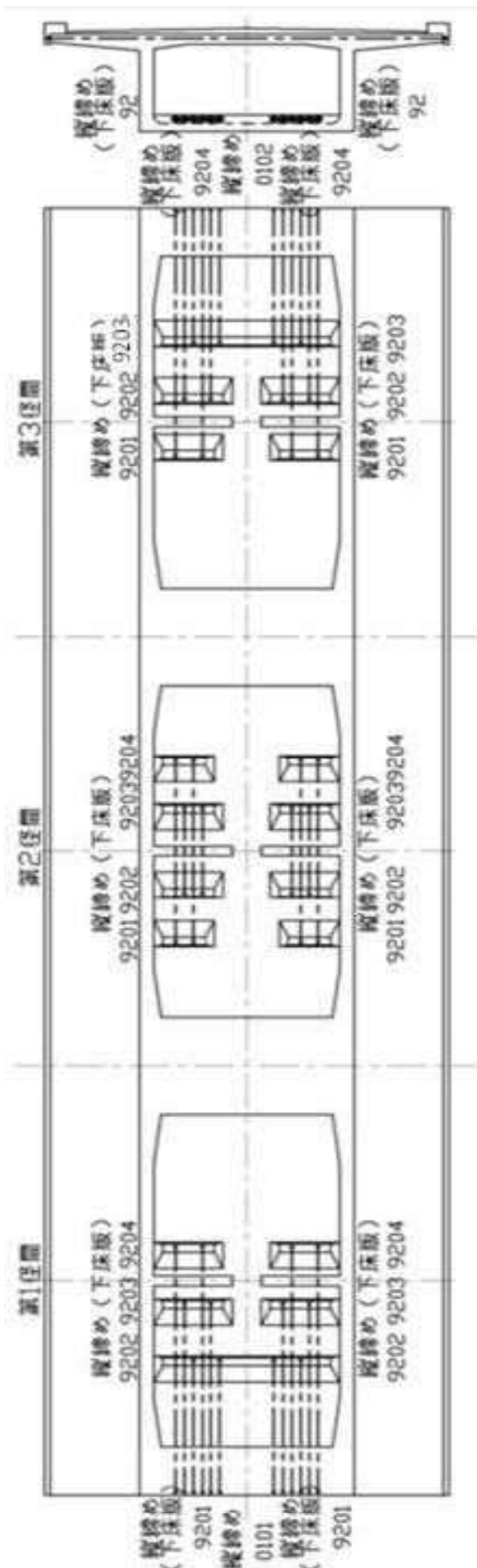
※本事例では、縦締めは0 1番とし、横桁横締めが1 1番から1 2番までであるため、床版は2 1番から始める。また、床版横締めの下2桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

k) ポステン 3 径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締めウェブ）の例



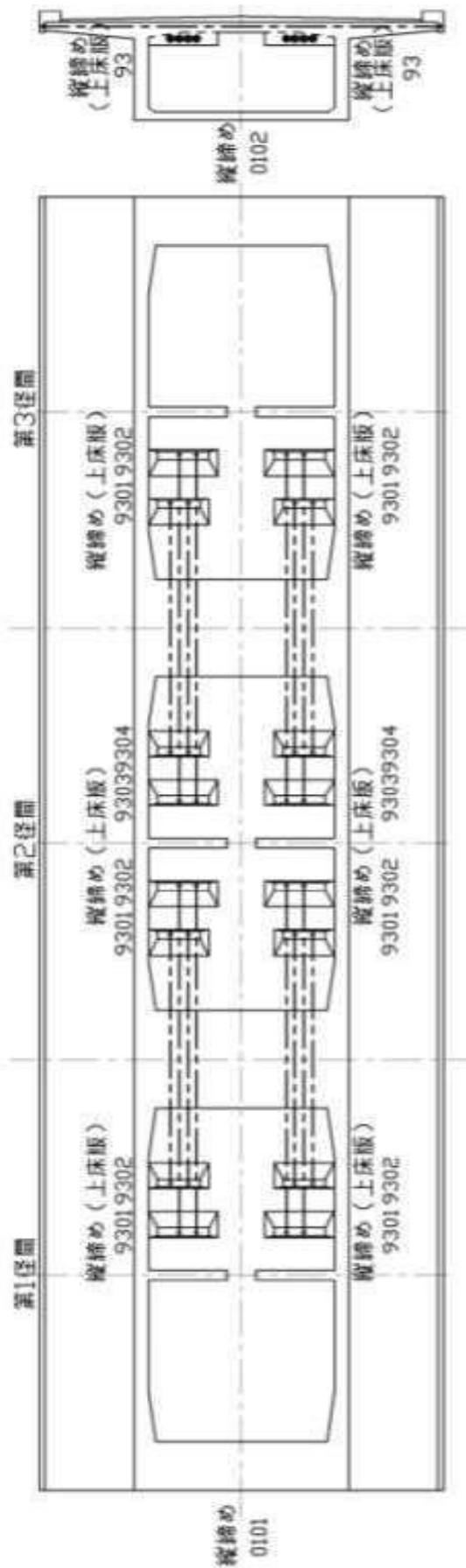
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、ウェブは91番とする。縦締めウェブの下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。このとき、両桁端部は箱桁内の定着突起状況を確認して要素番号を付けるか決定する。本事例では、端部に定着があると判断している。

1) ポステン3径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締め下床版）の例



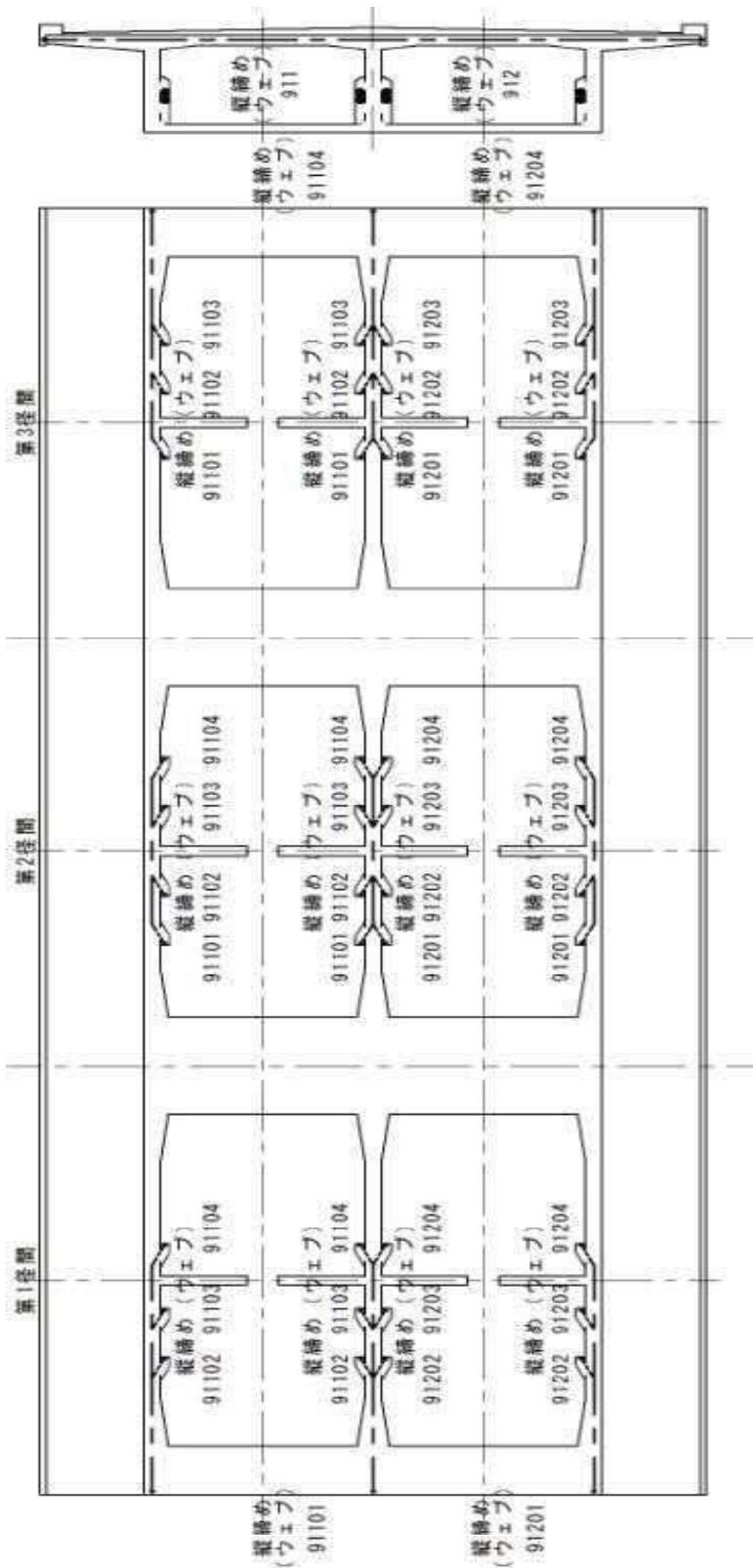
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、下床版は92番とする。縦締め下床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。このとき、両桁端部は箱桁内の定着突起状況を確認して要素番号を付けるか決定する。本事例では、端部に定着があると判断している。

㊦ポステン3径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締め上床版）の例



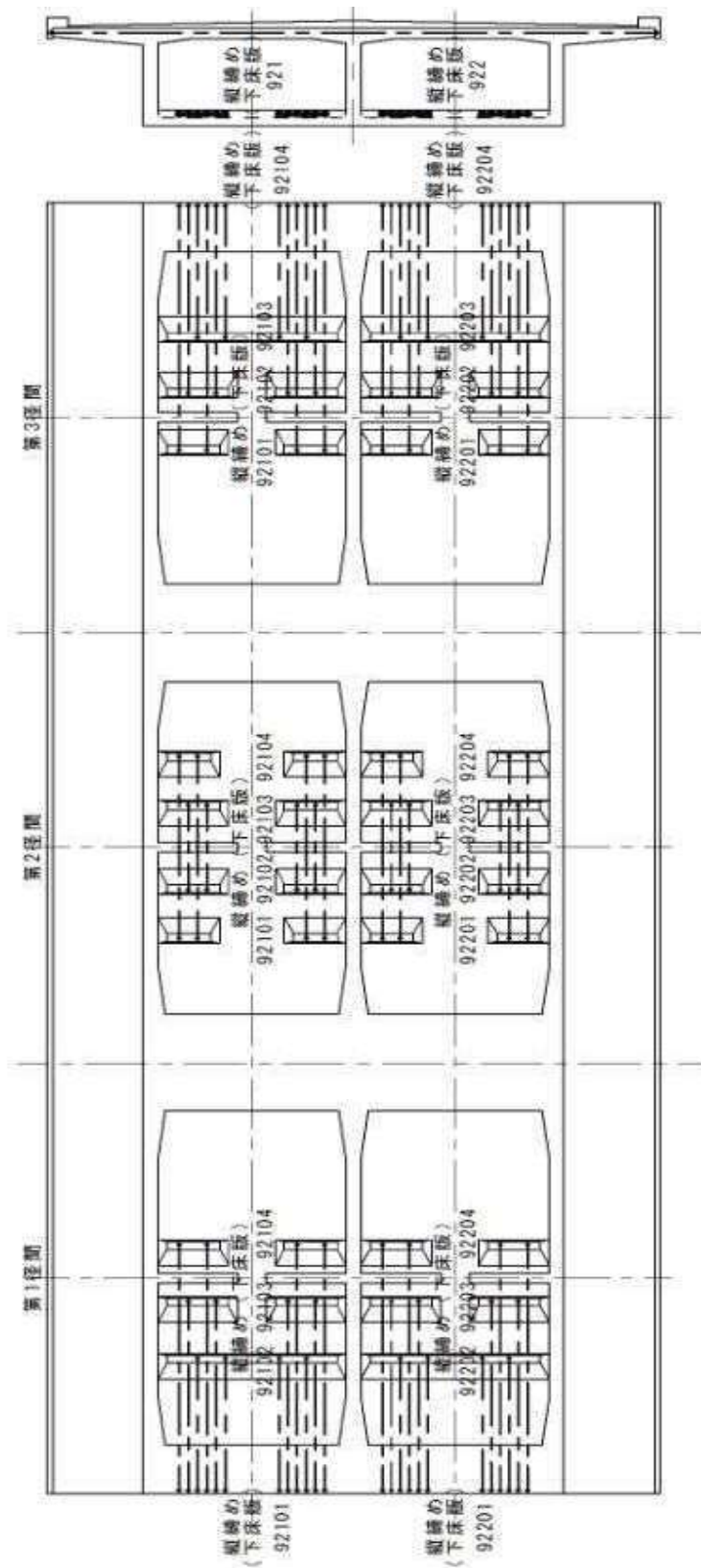
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、上床版は93番とする。縦締め上床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。

n) ポステン3径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締めウェブ）の例



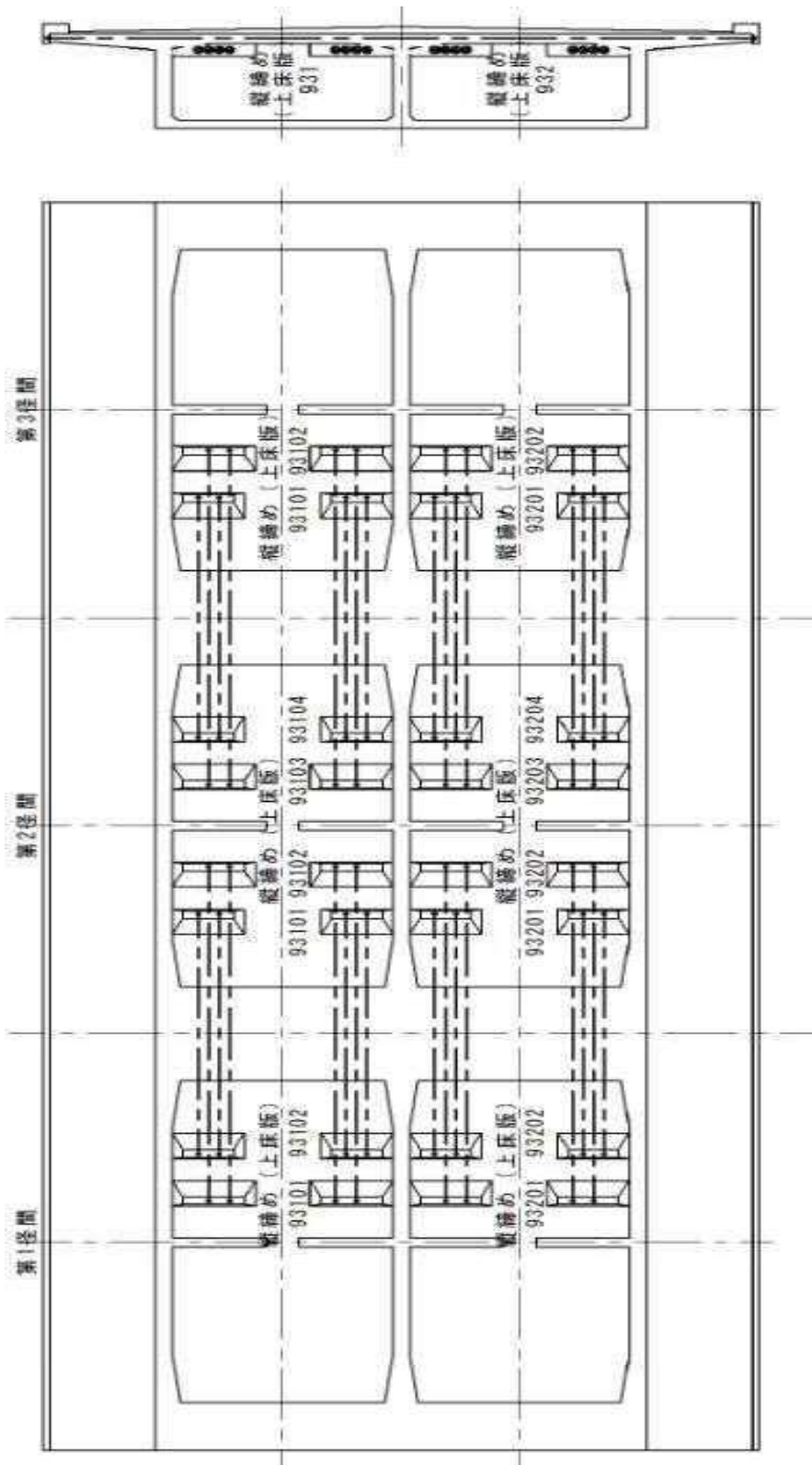
※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、ウェブは910番とする（要素番号が5桁となる）。縦締めウェブの下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。本事例では、端部定着があると判断している。

o) ポステン3径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締め下床版）の例



※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、下床版は920番とする（要素番号が5桁となる）。縦締め下床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。本事例では、端部定着があると判断している。

p) ポステン 3径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締め上床版）の例

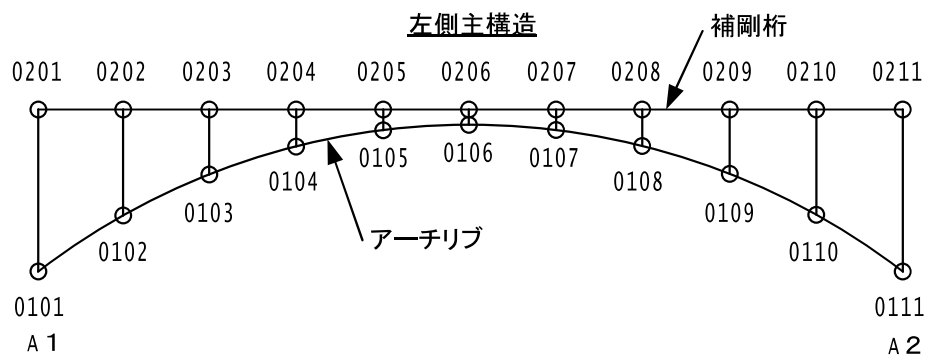
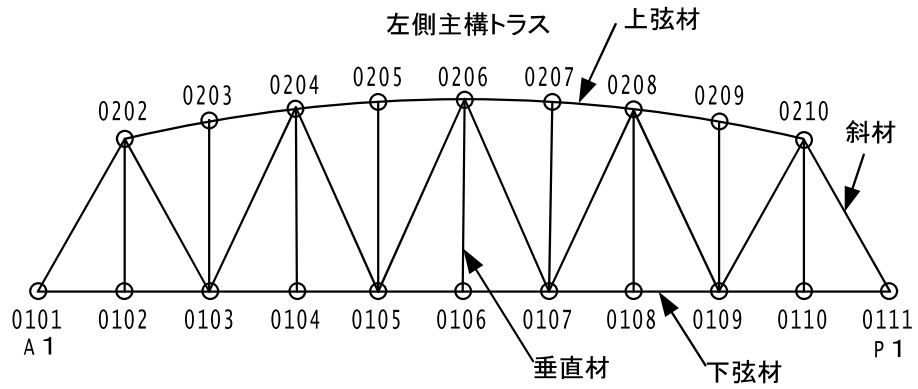


※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、上床版は930番とする（要素番号が5桁となる）。縦締め上床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。

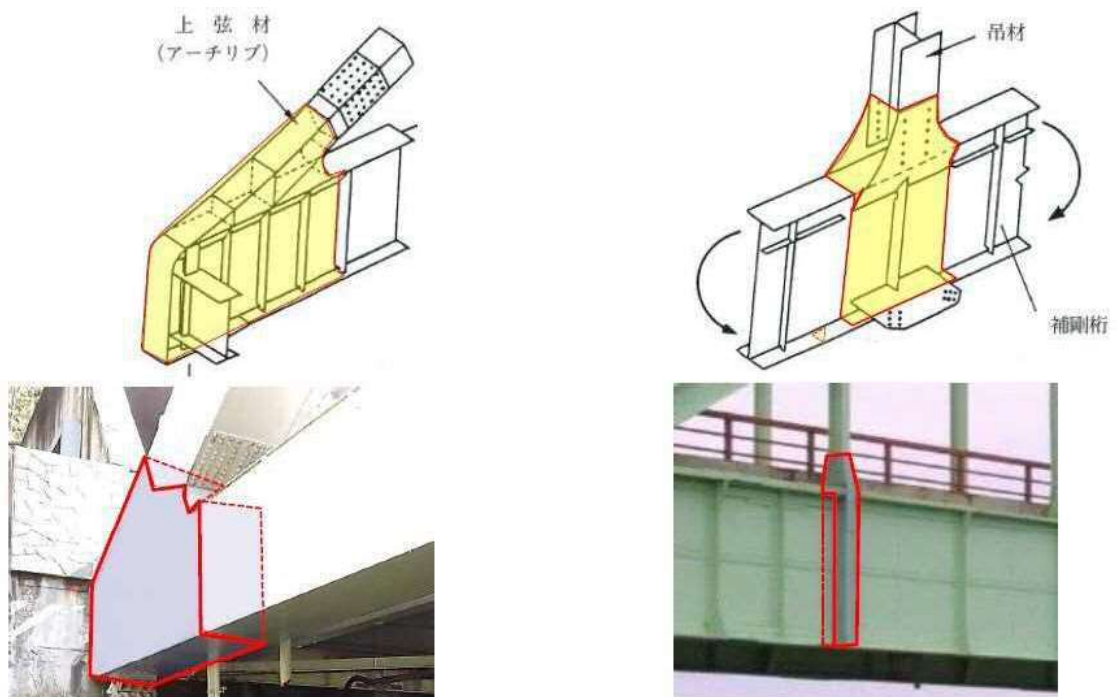
付図-3. 2 要素番号例（その17）

- ・アーチ, トラスの格点

トラス・アーチ橋の格点部の要素番号例



a) アーチ橋の格点部の例

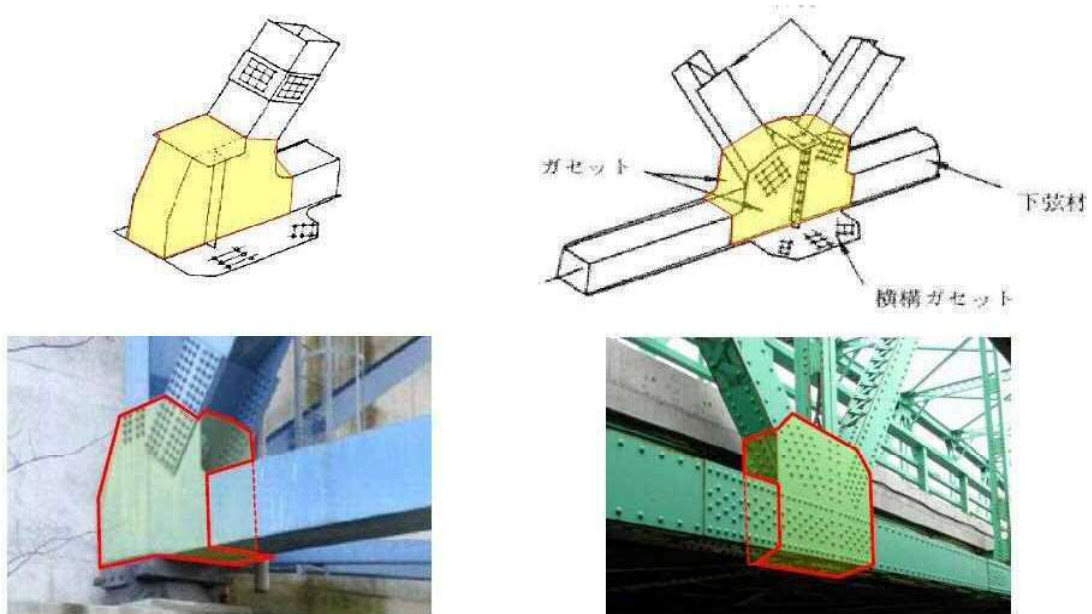


b) ニールセンローゼ橋の格点部の例

- ・ニールセンローゼ橋では、格点部の範囲が明確ではないため、目安として、ケーブルを中心
にアーチリブ、補剛桁の幅程度の範囲を格点部とする。



c) トラス橋の格点部の例



付図-3. 2 要素番号例 (その18)

- ・トラスの斜材，垂直材のコンクリート埋込部
- ・アーチの吊り材等のコンクリート埋込部

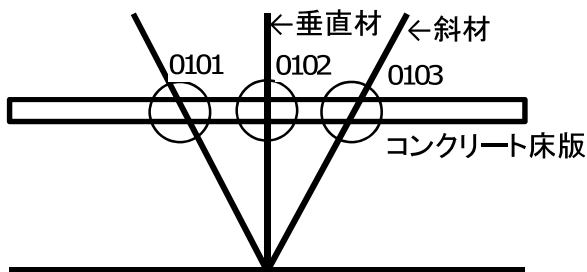
コンクリート埋込部周辺に発生している目視で確認できる，コンクリート境界面における滞水等による腐食や埋込部から滲出している錆汁・漏水等を，コンクリート埋込部における損傷として扱う。

なお，コンクリート埋込部は鋼部材であるため，「埋込部から滲出している錆汁・漏水」は，「⑧漏水・遊離石灰」ではなく，「⑳漏水・滞水」（錆汁は㉑その他）として扱う。

また，箱抜き処理が行われている箇所は，コンクリート埋込部とは扱わない。

a) 斜材，垂直材のコンクリート埋込部の標準例

要素番号例



b) 箱抜き処理が行われている例

- ・箱抜き処理が行われて，斜材，垂直材への目視，打音及び触診が可能であるときは，コンクリート埋込部としない。

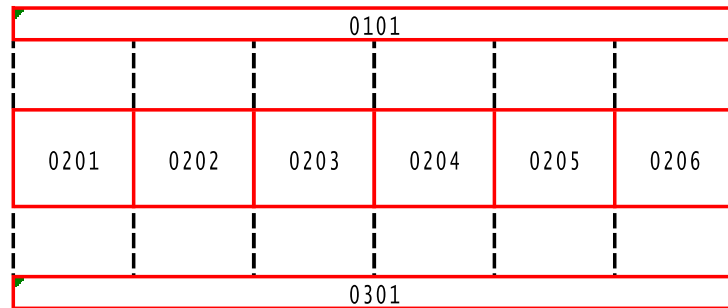
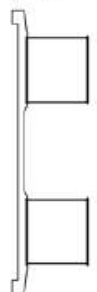
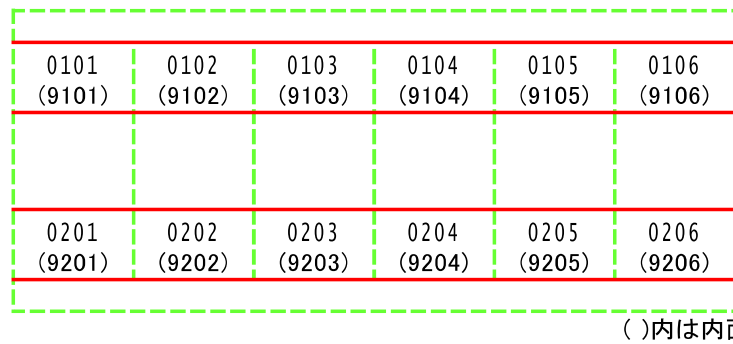
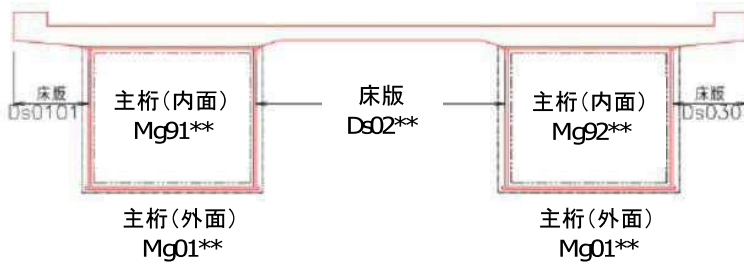


付図－3. 2 要素番号例（その19）

・箱桁

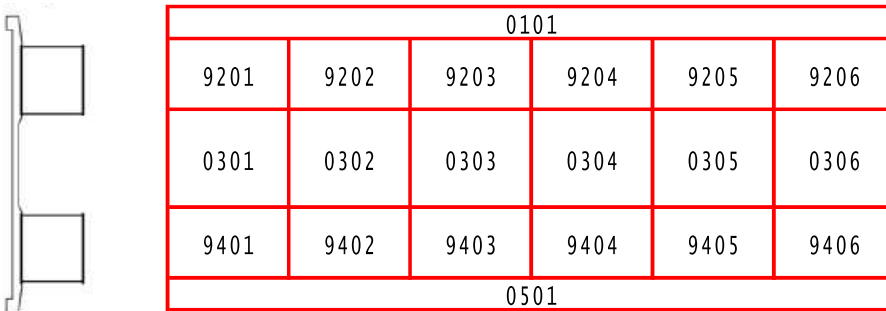
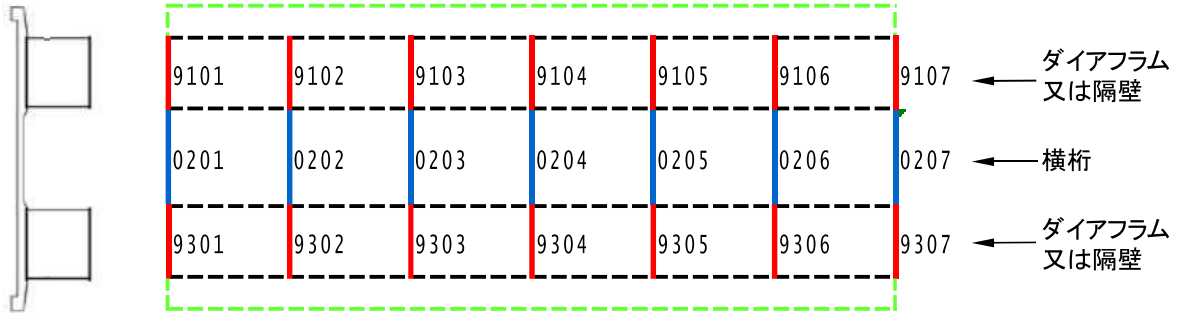
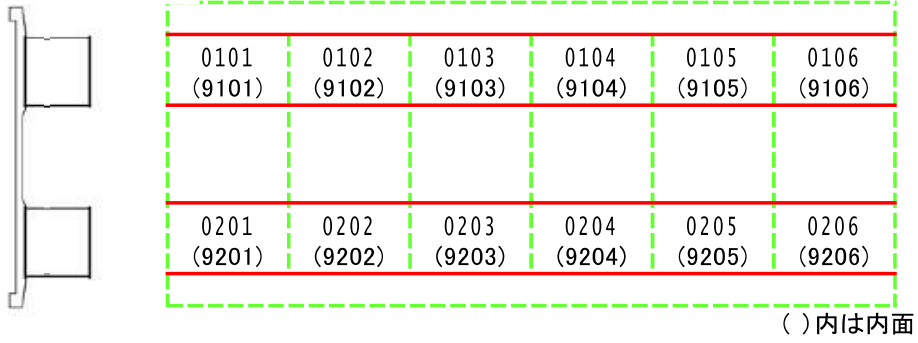
a) 閉断面箱桁 (鋼桁)

- ・箱内の上フランジ部は, 「主桁」とする。



b) 開断面箱桁（鋼桁），PC・RC箱桁

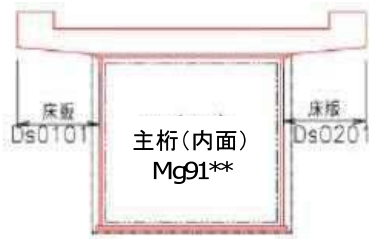
- ・箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。



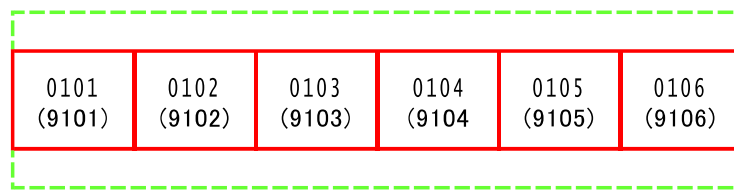
c) 1BOX箱桁

- ・箱内の上フランジ部は、「主桁」とする。

1) ブラケット無し

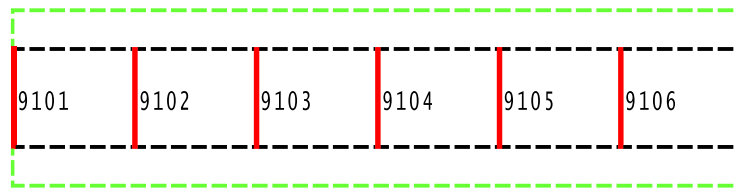


主桁 (Mg)



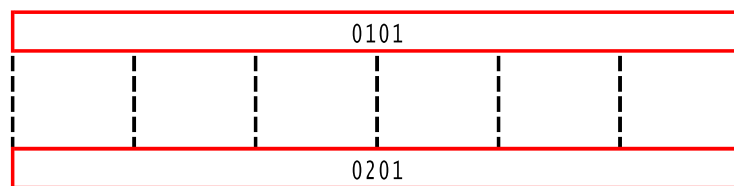
↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ()内は内面
外面はダイアフラム位置を想定し、分割する

横桁 (Cr)

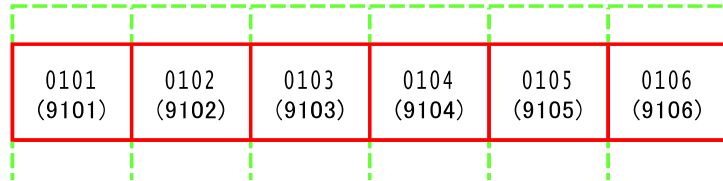
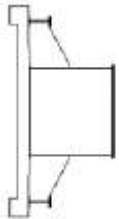
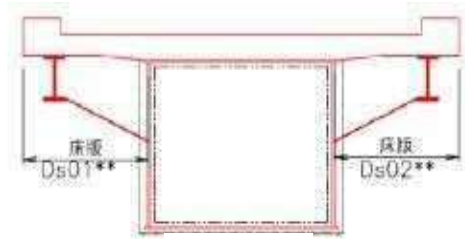


9107 ← ダイアフラム
又は隔壁

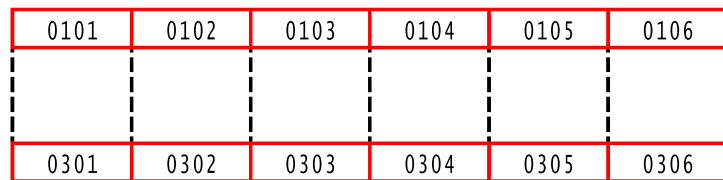
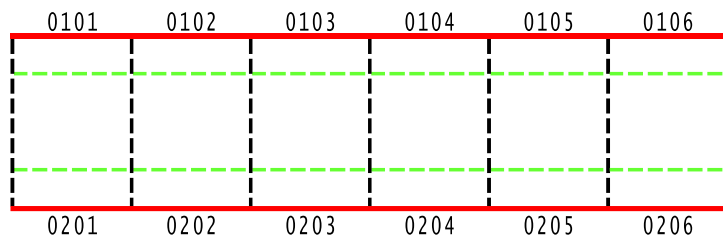
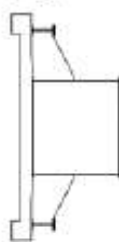
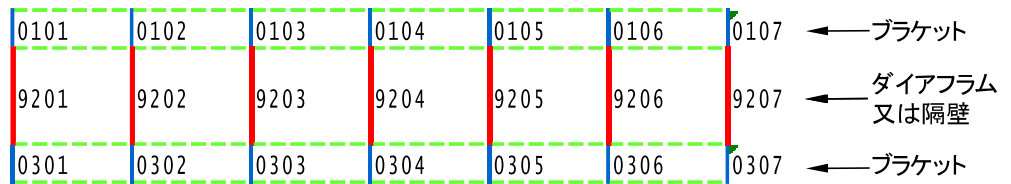
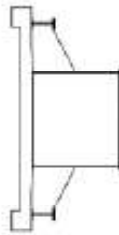
床版 (Ds)



2) ブラケット付き

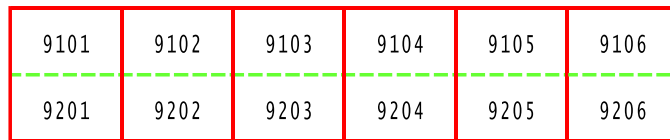
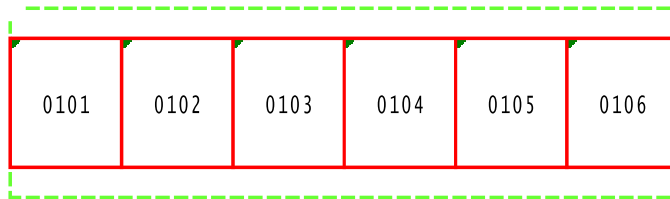
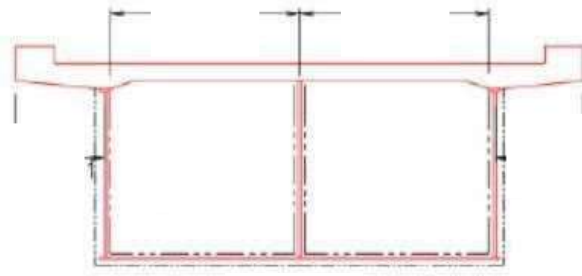


()内は内面

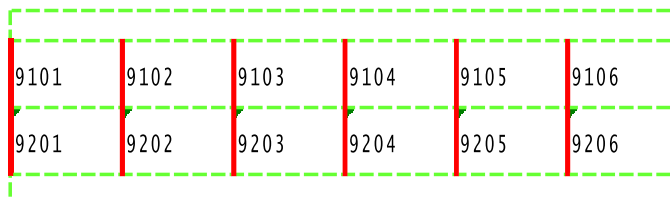


張出部もブラケットで分割する

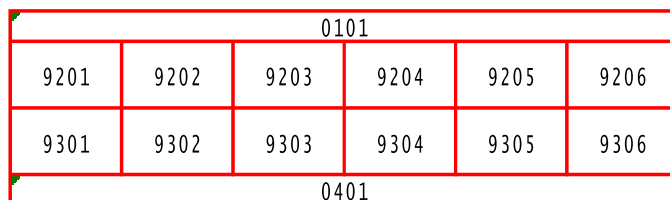
- d) 開断面箱桁（鋼桁），PC・RC箱桁でウェブ3枚以上
- ・箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。



← 内面はウェブで分割

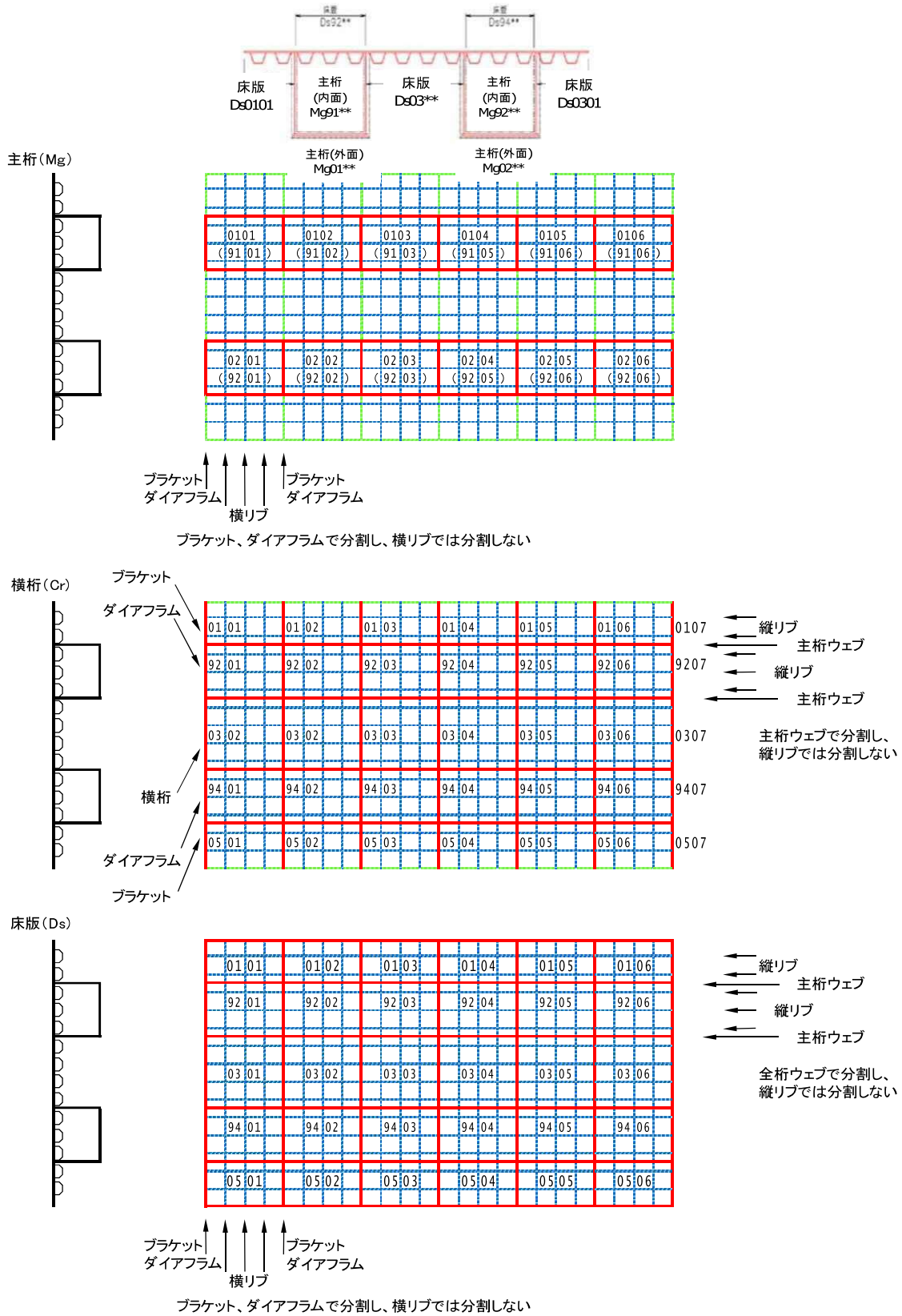


← ダイアフラム
 ← 内面はウェブで分割
 ← ダイアフラム



e) 鋼床板

- ・ 箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。



付図-3. 2 要素番号例 (その20)

・照明・標識施設

附属物（標識，照明施設等）点検要領3頁の解説は，次のとおり。

橋梁に附属している標識，照明施設等附属物の定期点検は，「附属物（標識，照明施設等）点検要領 国土交通省道路局国道・技術課」（平成31年3月）により行う。ただしこれとは別に，標識，照明施設等の支柱や橋梁への取付部等については，橋梁の定期点検時にも状態把握を行うことを基本とする。

よって，少なくとも支柱及取付部は道路橋の定期点検の対象とする。

a) 部位・部材区分

・付録-3の「付表-3. 2 各部材の名称と記号」に，照明・標識施設に該当する構造形式が設定されていないこと，また，路上施設の部材種別に「その他」が設定されていないことから，上部構造に設置の施設は上部構造の「その他」，下部構造に設置の施設は下部構造部材の「その他」とする。

なお，取付部において取付られている部材（地覆，床版等）に及ぶ損傷がある場合は，取付られている部材の損傷としても扱う。

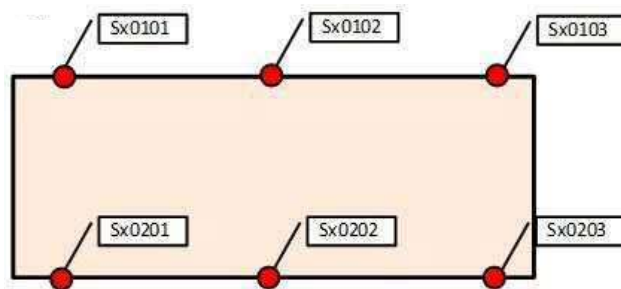
・袖擁壁に設置されている施設は，本来の附属物点検を行えば十分と考え，橋梁定期点検では対象外とする。なお，付表-3. 2において，袖擁壁に「その他」の扱いはない。

b) 要素番号の設定

・要素番号は，起点側から終点側に，起点側から終点側を見て左側（上側）から右側（下側）に付番する。

・既に上部構造「その他」部材が設定されている場合は，設定されている部材の後の番号を設定する。

ア) 照明施設・単柱標識の例

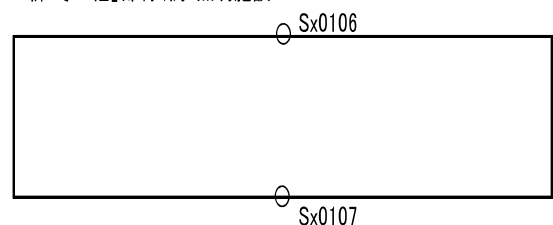


ウ) 新旧部材の例

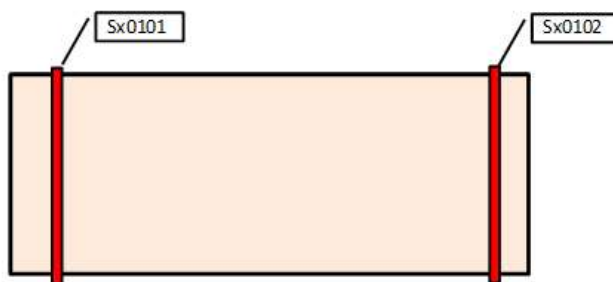
・旧「その他」部材(例:横支材)

Sx0101	Sx0102	Sx0103	Sx0104	Sx0105	
--------	--------	--------	--------	--------	--

・新「その他」部材(例:照明施設)

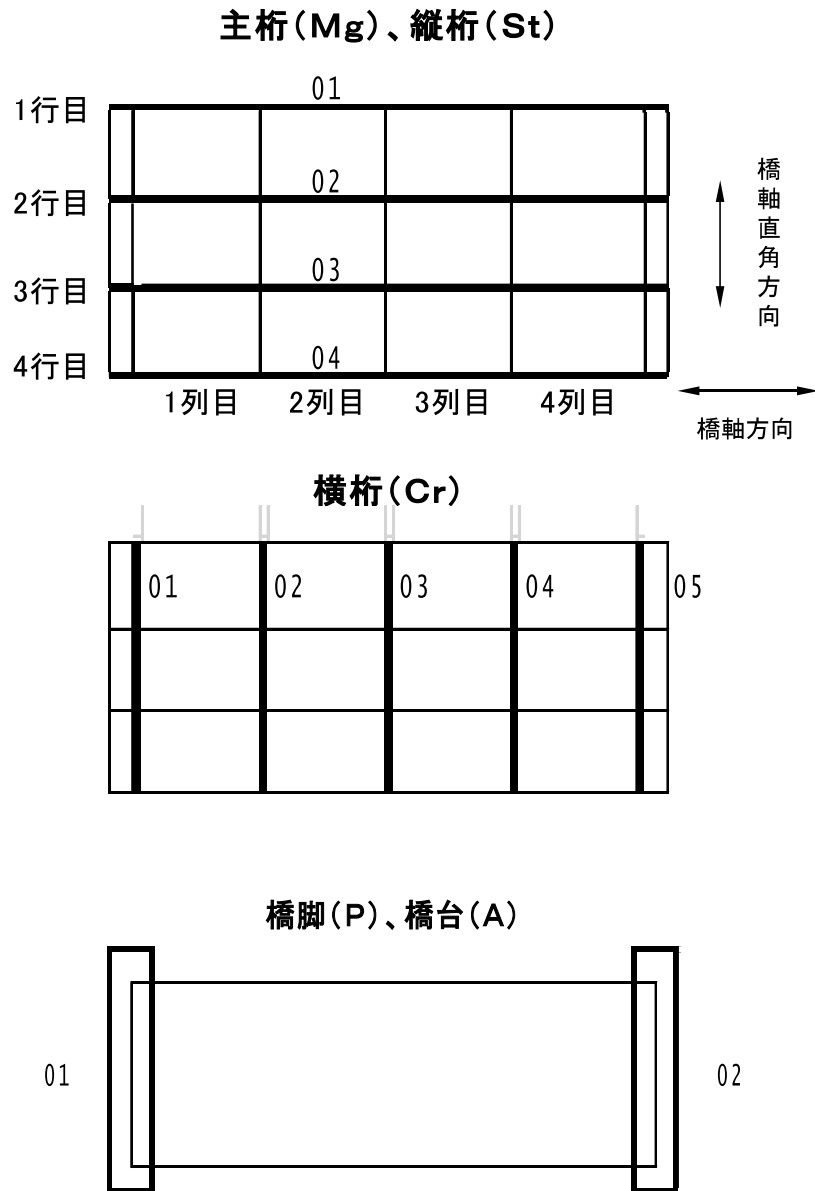


イ) 門型標識の例



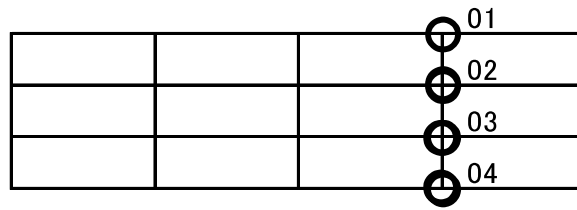
付図-3. 2 要素番号例 (その22)

■付図一3.3 部材番号例

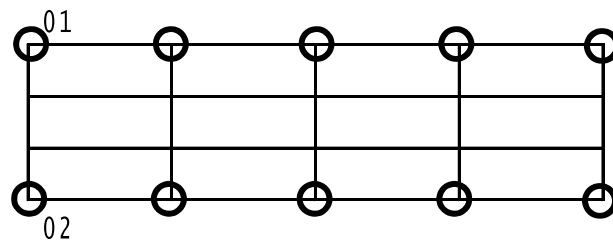


付図一3.3 部材番号図(その1)

・ゲルバー部

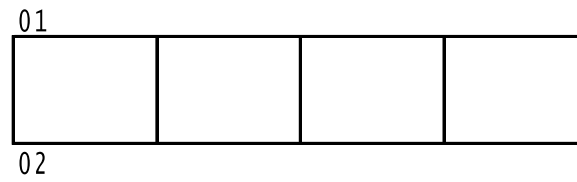


・PC定着部



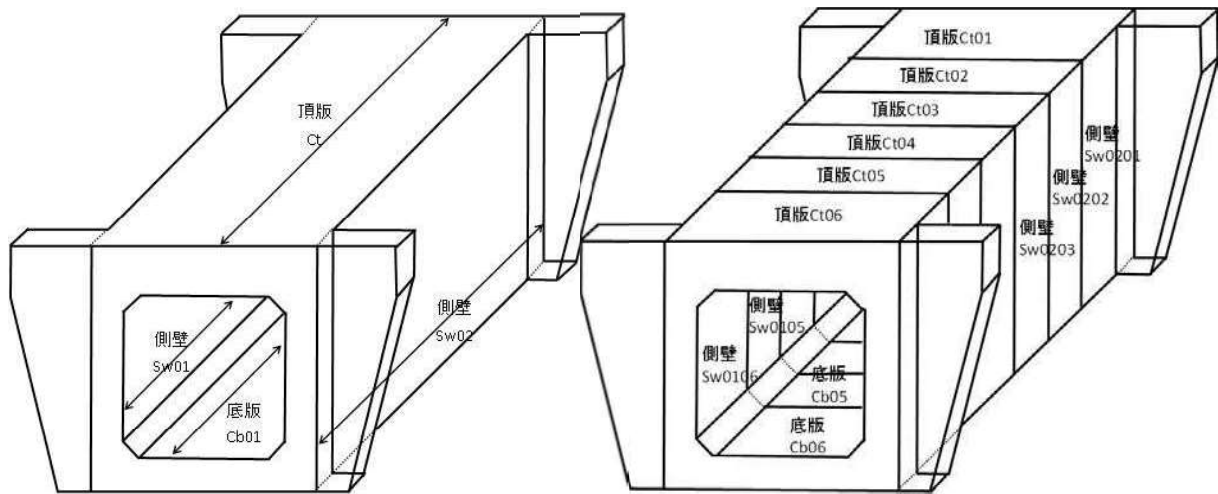
・アーチ，トラスの格点

- ・トラスの斜材，垂直材のコンクリート埋込部
- ・アーチの吊り材等のコンクリート埋込部



付図一3. 3 部材番号例 (その2)

・溝橋（ボックスカルバート）



付図－3. 3 部材番号例（その3）